

OmniPass Enterprise Edition V3



クライアントユーザ用マニュアル

第1.0版



OmniPassEE クライアント導入ガイド

OmniPassEE クライアントを導入するには、次の手順が必要です。

- ・ 指紋センサドライバのインストール。
- ・ OmniPassEE クライアントアプリケーション(以降 OmniPass)のインストール。
- ・ OmniPassEE クライアント PC の接続。
- ・ OmniPassEE クライアントユーザの登録。

■ SREX-FSU1G をご利用の場合 ■

| 指紋センサドライバのインストール | OmniPass のインストール |
|------------------|--|
| ⇒ 8 頁へ | ⇒ 12 頁へ OmniPass のインストール後は 「3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続」 「3-3. OmniPassEE クライアント ユーザの登録」 へ進んでください。 |

※ SREX-FSU1G は 64 ビット版 OS には対応していません。

■ SREX-FSU2 をご利用の場合 ■

| 指紋センサドライバのインストール | OmniPass のインストール |
|------------------|--|
| ⇒ 10 頁へ | ⇒ 12 頁へ OmniPass のインストール後は 「3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続」 「3-3. OmniPassEE クライアント ユーザの登録」 へ進んでください。 |

目次

| | |
|-------------------------------------|------|
| 第1章 はじめに | |
| 1-1. 安全にお使い頂くために | 4 頁 |
| 第2章 準備 | |
| 2-1. マニュアルの構成 | 7 頁 |
| 2-2. SREX-FSU1G インストール | 8 頁 |
| 2-3. SREX-FSU2 インストール | 10 頁 |
| 第3章 登録 | |
| 3-1. OmniPass インストール | 12 頁 |
| ■OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール | |
| ■OmniPassEE クライアントアプリケーションのアンインストール | |
| 3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続 | 16 頁 |
| ■クライアント PC の登録 | |
| ■OmniPass 用のアイコンについて | |
| 3-3. OmniPassEE クライアントユーザの登録 | 18 頁 |
| ■クライアントユーザの登録 | |
| ■OmniPass 認証ダイアログ | |
| 第4章 使用 | |
| 4-1. アカウント情報の記憶 | 23 頁 |
| ■Web ログオンパスワードの記憶 | |
| ■アプリケーションログオンパスワードの記憶 | |
| ■ID の管理 | |
| 4-2. 暗号化と復号化 | 32 頁 |
| ■暗号化 | |
| ■復号化 | |
| ■暗号化ファイルの共有 | |
| 第5章 管理と設定 | |
| 5-1. ユーザの追加と削除 | 37 頁 |
| ■ユーザの追加 | |
| ■ユーザの削除 | |
| 5-2. アカウント情報の管理 | 39 頁 |

5-3. プロファイルのバックアップと復元

41 頁

■ ユーザプロファイルのバックアップ

■ ユーザプロファイルの復元

5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

45 頁

5-4-1. ユーザのデバイス登録の変更

5-4-2. 認証デバイスの必須設定

5-4-3. 緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

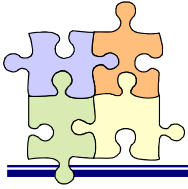
5-4-4. OmniPass へのログオン設定

5-4-5. 暗号化／復号化の設定

5-4-6. サウンド設定

5-4-7. タスクバーヒントの設定

5-4-8. 認証ウィンドウの設定





第1章 はじめに

1-1. 安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本マニュアルでは、いろいろな表示をしています。これは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために目安となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

| | |
|---|---|
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、データを失ったり、機密を要するデータが公開されたり、システムへのアクセスを拒否される等の危険があります。 |
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の機能が損なわれ、本マニュアルに記載された手順通りの動作ができなくなる可能性があることを示しています。 |

ご使用上の注意事項

■接続時のご注意

- ①1台のパソコンに同一の指紋センサを複数接続しないでください。
- ②USBハブに接続して使用する場合は、セルフパワー電源タイプ（ACアダプタなどで電源が供給されるタイプ）のハブに接続し、直列接続は2段以内にしてください。
- ③他社製の指紋センサがインストールされている場合は、そのソフトウェアをアンインストールしてから本指紋センサを接続してください。
- ④指紋認証中に本指紋センサの取り外しを行わないでください。

SREX-FSU1G 使用時のご注意

■SREX-FSU1G 指紋登録時・照合時のご注意

- ①指の状態が以下のような場合には指紋の登録や照合が困難になったり、照合率が低下したりすることがあります。
 - ・汗や脂が多い
 - ・手が荒れている、または極端に乾燥している
 - ・指に傷がある、または摩耗して指紋が薄い
 - ・急に太ったり、やせたりして指紋が変化した手を洗う、手を拭く、登録する指を変えるなどお客様の指の状態に合わせて対処することで、状況が改善されることがあります。
- ②指紋の登録や照合を行うときは、センサに正しく指を置いてください。

■SREX-FSU1G 指の置き方について

本指紋センサの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。指の腹（指紋の中心部）をセンサの中央に置きます。下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。



図①. 指の腹の中央をセンサに密着させる



図②. 指の一部しかセンサに触れていない

指紋サンプル例

●正しく読み取られた指紋



●読み取り時に問題のある指紋



(A)

(B)

(C)

(D)

(E)

(A) 指を奥に置きすぎている

(B) 指を手前に置きすぎている

(C) 指がセンサの右側にずれている

(D) 指の押しかが弱い

(E) 指が立っている

●読み取れない指紋



(A)

(B)

(C)

(A) 指が乾きすぎている

(B) 汗が多すぎる

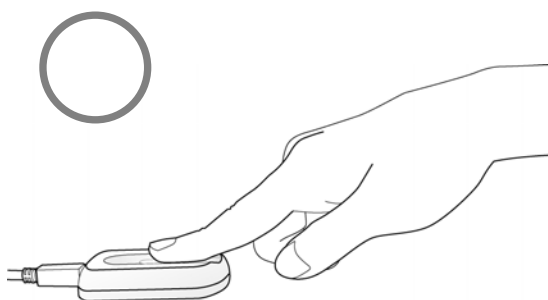
(C) 指が摩耗している

SREX-FSU2 使用時のご注意

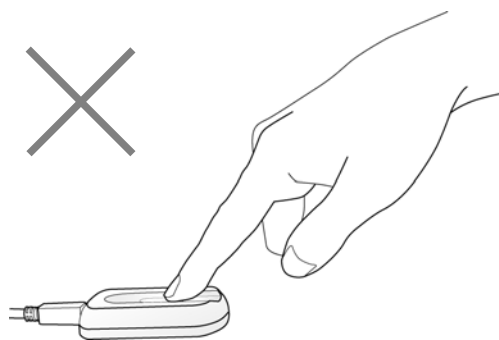
■SREX-FSU2 指のスライド方法について

本指紋センサの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。指の第1関節部あたりからスライドさせます。

下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。



図①. 指の第1関節部あたりからスライド



図②. 指の一部しかセンサに触れていない

その他のご注意



①指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



②本製品はパソコン用周辺機器として設計されております。人命に関わる用途、または高度な信頼性、安全性を要する用途での使用は考慮されておられません。このような用途で使用される設備、機器、システム等への組み込みは避けてください。



③本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。

また、本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。



④本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守およびサポートは行っておりません。



⑤本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。



⑥ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。



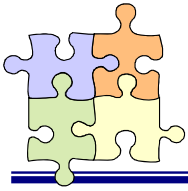
⑦高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカ等の磁気を帯びたものの近くでの保管は避けてください。



⑧製品の分解や改造等は、絶対に行わないでください。



⑨無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることは行わないでください。



第2章 準備

2-1. マニュアルの構成

本マニュアルの第2章「準備」からは、SREX-FSU1G/FSU2 指紋センサとセキュリティ認証ソフトウェア OmniPass を組み合わせて使用して頂く上で最初に行う必要がある準備事項について説明を行っています。

第4章「使用」では、実際に OmniPass を使って頂くための操作方法について説明を行っています。

第5章「管理と設定」では、OmniPass の各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

本製品をご利用される前に、第2章/第3章で説明されている準備作業を必ず行ってください。

第4章「使用」および第5章「管理と設定」で説明されている項目に関しては、ご使用の目的に合わせて必要となる内容をご参照願います。

本マニュアルは下表のように構成されています。

●第2章 「準備」

| | |
|------------------------|---------------------------|
| 2-2. SREX-FSU1G インストール | 指紋センサドライバのインストール手順を説明します。 |
| 2-3. SREX-FSU2 インストール | 指紋センサドライバのインストール手順を説明します。 |

●第3章 「登録」

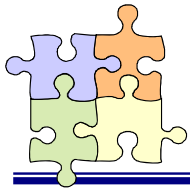
| | |
|-------------------------------|---|
| 3-1. OmniPass のインストール | インストール、アンインストール手順を説明します。 |
| 3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続 | OmniPassEE クライアント PC のサーバへの接続について説明します。 |
| 3-2. OmniPassEE クライアントユーザの登録 | OmniPassEE クライアントユーザの登録について説明します。 |

●第4章 「使用」

| | |
|-----------------|---------------------------------|
| 4-1. アカウント情報の記憶 | ID とパスワードの自動入力機能の使用方法を説明します。 |
| 4-2. 暗号化と復号化 | ファイルとフォルダの暗号化/復号化機能の使用方法を説明します。 |

●第5章 「管理と設定」

| | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 5-1. ユーザの追加と削除 | OmniPass にユーザを追加/削除する方法を説明します。 |
| 5-2. アカウント情報の管理 | 4-1 で記憶したアカウント情報の管理方法を説明します。 |
| 5-3. プロファイルのバックアップと復元 | エクスポート/インポート機能の使用方法を説明します。 |
| 5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定 | その他の OmniPass 機能を説明します。 |



第2章 準備

2-2. SREX-FSU1G インストール

OmniPass 指紋登録を行う前に、必ず SREX-FSU1G のインストールを行ってください。



※ SREX-FSU1G は 64 ビット版 OS には対応していません。

1

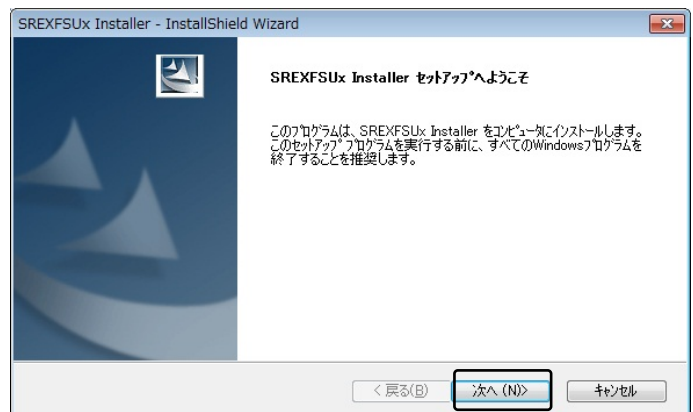
指紋センサを PC に接続する前に、製品添付 CD-ROM を CD ドライブへ挿入し、[CD-ROM¥Win8_7] フォルダ内の FSUxSetup.exe を実行します。

ユーザーアカウント制御のメッセージが表示される場合は、「はい(Y)」をクリックします。



2

「SREXFSUx Installer セットアップへようこそ」で「次へ(N)」をクリックします。



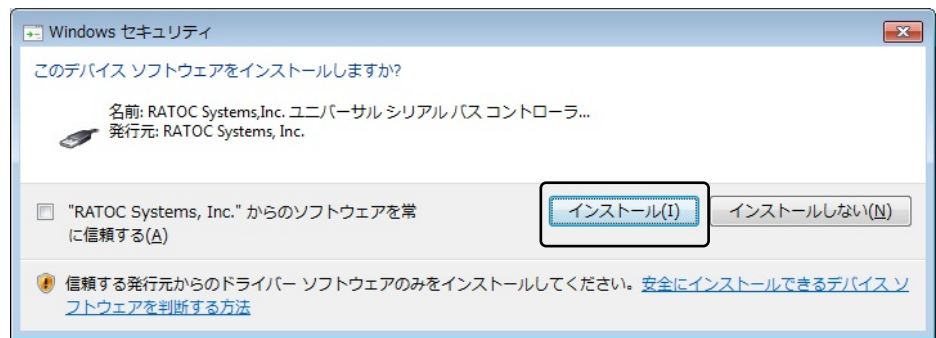
3

「機能の選択」でインストールするセンサの画像をクリックします。



4

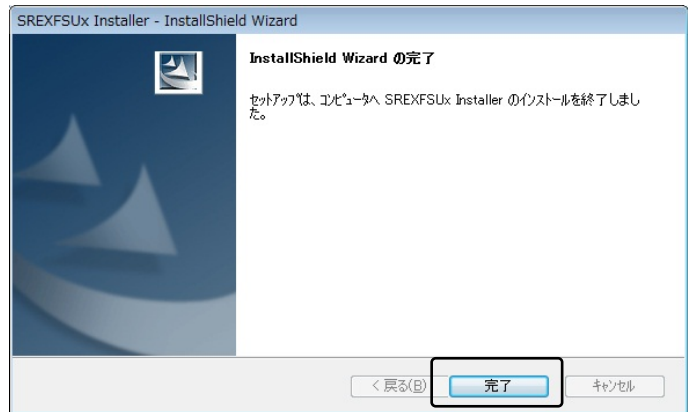
「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」で「インストール(I)」をクリックします。



5

以上でドライバのセットアップは完了です。

指紋センサを接続すると自動的にドライバがインストールされます。

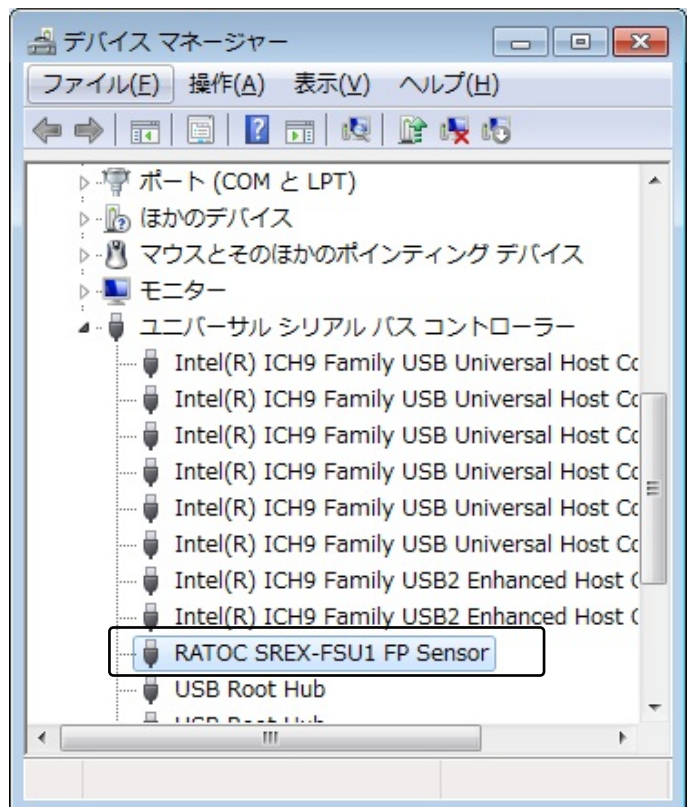


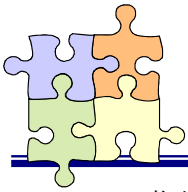
6

インストールが正常に行われているか確認する場合は、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示方法を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替えます。

「デバイスマネージャ」をクリックします。

「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」の下に、「RATO SREX-FSU1 FPSensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。





第2章 準備

2-3. SREX-FSU2 インストール

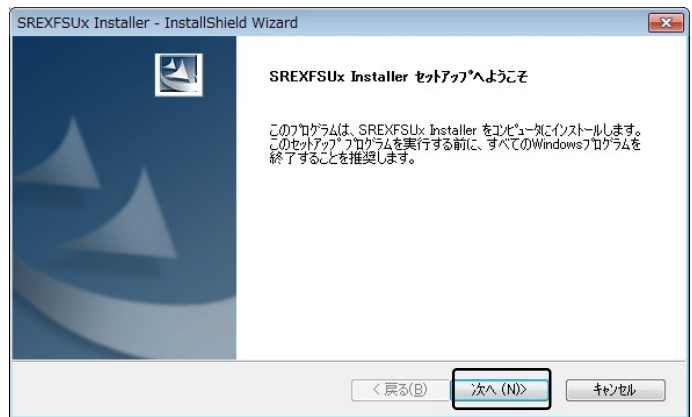
OmniPass 指紋登録を行う前に、必ず SREX-FSU2 のインストールを行ってください。

- 1 指紋センサを PC に接続する前に、製品添付 CD-ROM を CD-ROM ドライブへ挿入し、[CD-ROM¥Win8_7] フォルダ内の FSUxSetup.exe を実行します。

ユーザーアカウント制御のメッセージが表示される場合は、「はい(Y)」をクリックします。



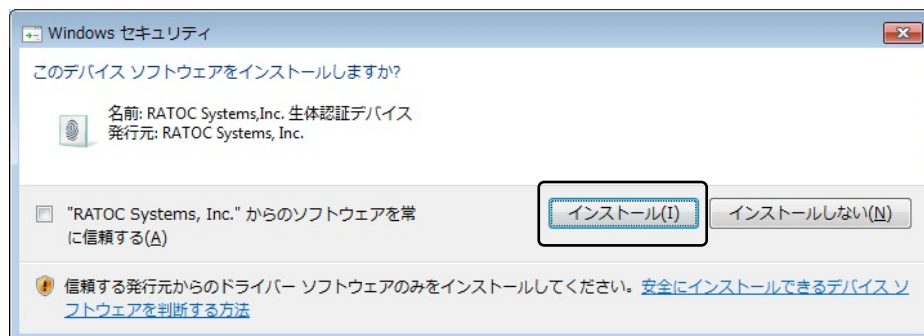
- 2 「SREXFSUx Installer セットアップへようこそ」で「次へ(N)」をクリックします。



- 3 「機能の選択」でインストールするセンサの画像をクリックします。

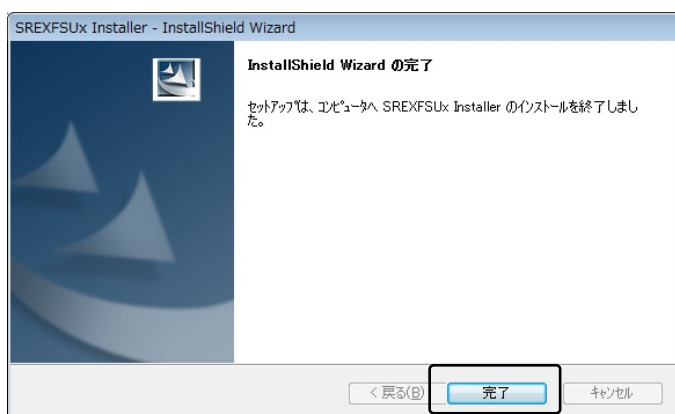


- 4 「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」で「インストール(I)」をクリックします。



5 以上でドライバのセットアップは完了です。

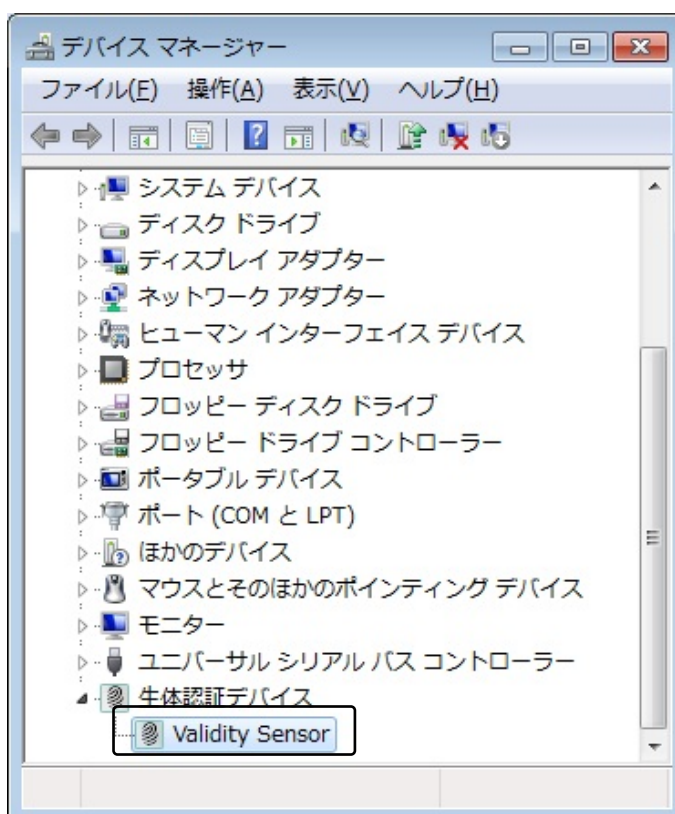
指紋センサを接続すると自動的にドライバがインストールされます。

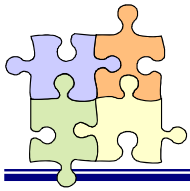


6 インストールが正常に行われているか確認する場合は、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示方法を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替えます。

「デバイスマネージャ」をクリックします。

「生体認証デバイス」の下に、「Validity Sensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。





3-1. OmniPass インストール

■ OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール



インストールの前に

- (1) OmniPassEE のクライアントアプリケーションをインストールする前に、クライアント PC に SREX-FSU1G/FSU2 のドライバをインストールする必要があります。インストールの手順については、本マニュアルの第2章をご参照ください。
- (2) クライアント PC はあらかじめサーバのドメインに接続できるように設定してください。
- (3) コンピュータの管理者権限を持つユーザとしてログオンし、インストールを開始してください。
- (4) OmniPassEE クライアントアプリケーションは管理者より配布されます。

STEP 1

64bit 版 OS の場合

(AD サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥AD_CLIENT¥AD_CLIENT_x64 にある setup.exe を実行します。

(ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥ADAM_CLIENT¥ADAM_CLIENT_x64 にある setup.exe を実行します。

32bit 版 OS の場合

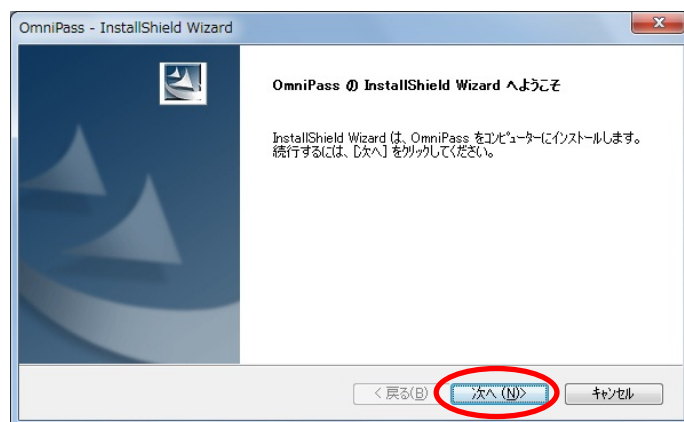
(AD サーバへ接続する場合)

[CD-ROM]¥AD_CLIENT¥AD_CLIENT_x32 にある setup.exe を実行します。

(ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合)

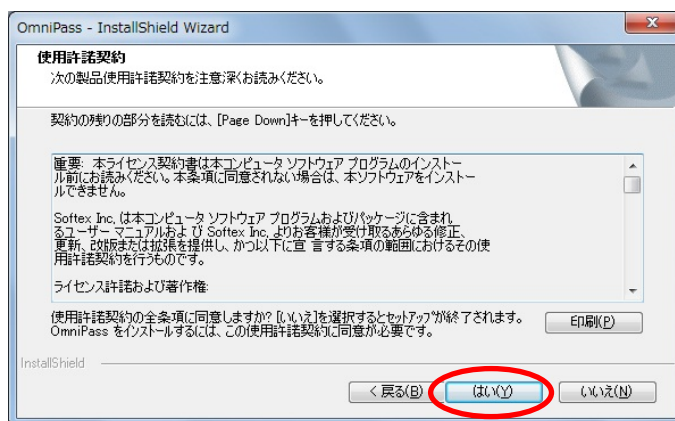
[CD-ROM]¥ADAM_CLIENT¥ADAM_CLIENT_x32 にある setup.exe を実行します。

「セットアップへようこそ」の画面で「次へ」をクリックします。



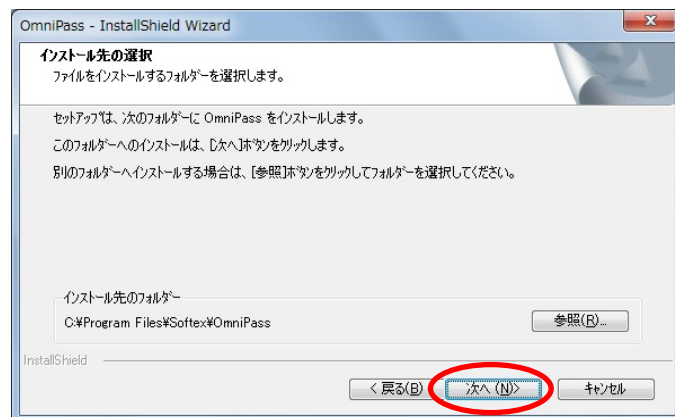
STEP 2

使用許諾書の内容をご確認いただき、同意であれば「はい」をクリックします。



STEP 3

OmniPassEE クライアントのインストール先を選択し、「次へ」をクリックします。

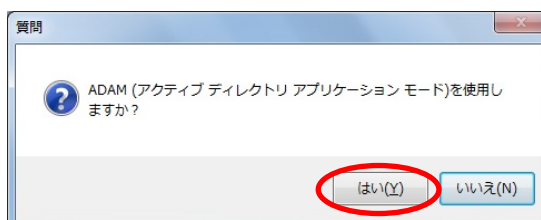


※ AD サーバへ接続する場合、STEP4 は表示されません。STEP5 へ進んでください。

STEP 4

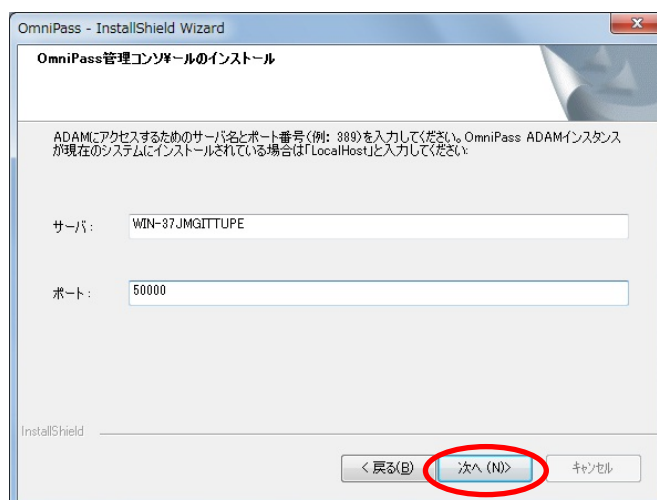
STEP 4-1

ADAM/AD LDS サーバへ接続する場合、「はい」をクリックします。



STEP 4-2

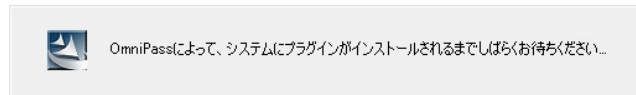
接続するサーバ名とポート番号(デフォルト: 50000)を入力し「次へ」をクリックします。



STEP 5

OmniPassEE クライアントのインストール実行画面が表示されます。

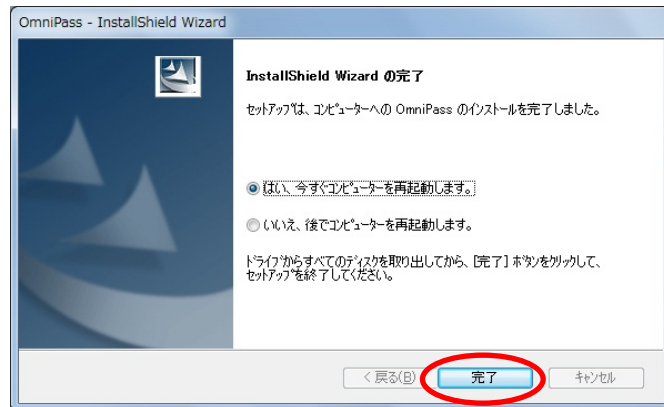
ここでは、何も操作する必要はありません。



STEP 6

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックします。

インストール後の再起動時には、サーバドメインのクライアントとしてPCにログインしてください。



OmniPassEE クライアント PC のサーバへの接続方法については、「3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続」をご参照ください。

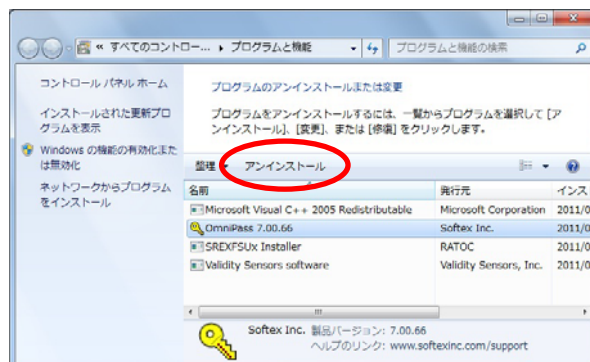
■OmniPassEE クライアントアプリケーションのアンインストール

STEP 1

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を起動します。

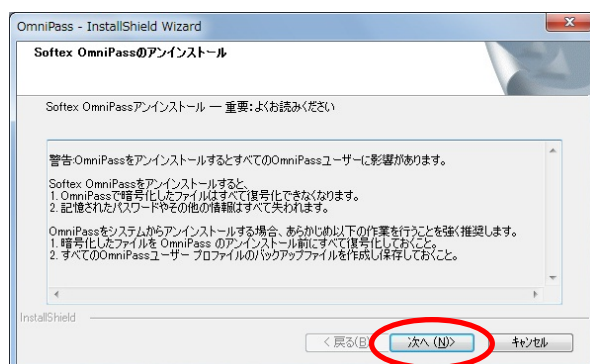
「OmniPass」を選択し、「アンインストール」をクリックします。

または、「スタート」メニューから「プログラム」→「Softex」→「OmniPass のアンインストール」を選択します。(Windows 7での実行例です。)



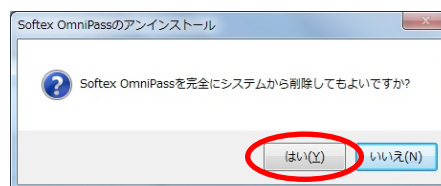
STEP 2

アンインストールに関する注意事項をご確認いただき「次へ」をクリックします。



STEP 3

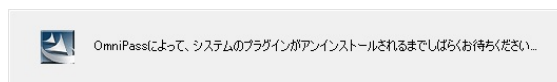
アンインストールする場合は「はい」をクリックします。



STEP 4

OmniPassEE クライアントのアンインストール実行画面が表示されます。

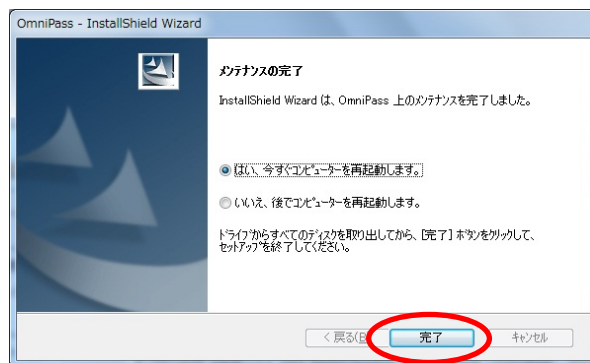
ここでは、何も操作する必要はありません。

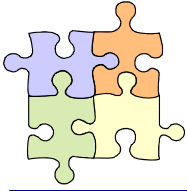


STEP 5

以上でアンインストールは完了です。

「はい、今すぐにコンピュータを再起動します。」を選択して「完了」をクリックします。





第3章 登録

3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続

■クライアント PC の登録

クライアント PC を OmniPassEE サーバへ接続するには、OmniPass サーバへクライアント PC を登録する必要があります。

クライアント PC を登録するには次の 2 通りの方法があります。

- ・ 「クライアント PC から登録」
- ・ 「サーバ側の管理コンソールから登録」

ここでは、クライアント PC から登録する方法を説明いたします。

サーバ側の管理コンソールから登録する場合は、サーバ管理者までお問い合わせください。
(OPEE 管理マニュアル：2-4-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録)

OmniPass をインストールし、PC を再起動すると以下の画面が表示されます。

この時、管理者のユーザ名とパスワードの入力が必要となりますので、この画面が表示された場合は管理者までお問い合わせください。

クライアント PC を OmniPassEE サーバに接続して使用するために、

「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバと接続します。」を選択します。

管理者のユーザ名とパスワードを入力し「OK」をクリックします。



「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバに接続しません。このコンピュータは、「スタンドアロン」クライアントモードで動作します。」

を選択すると、OmniPassEE クライアントは OmniPassEE サーバに接続せず、この PC 上でスタンドアロンモードとして動作します。

スタンドアロンモードの場合、OmniPassEE に接続するためにはクライアント PC の OmniPass を再インストールする必要がありますのでご注意ください。

■OmniPass 用のアイコンについて

OmniPassEE クライアントがインストールされ、正常に OmniPassEE サーバに接続されると、タスクトレイに「鍵とコンピュータのアイコン」が表示されます。



OmniPassEE クライアントコンソールアイコン



接続

OmniPassEE サーバと正常に接続されています。



切断

OmniPassEE サーバと接続されていない状態です。

この状態で新規に登録された情報は、一時的に OmniPassEE クライアント PC のローカルディスクに保存されます。



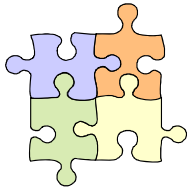
再接続中

OmniPassEE サーバに再接続中です。OmniPassEE サーバのユーザ情報を更新しています。(アイコンの PC の画面が点灯します。)



スタンド
アロン

OmniPassEE サーバと接続していません。OmniPassEE クライアントはスタンドアロンモードで実行され、全てのユーザ情報は PC のローカルディスクに保存されます。



第3章 登録

3-3. OmniPassEE クライアントユーザの登録

■クライアントユーザの登録

クライアントユーザの OmniPassEE サーバへの登録には、次の2通りの方法があります。

- ・ 「OmniPassEE クライアント PC から登録」
- ・ 「サーバ側の管理コンソールから登録」

ここでは、OmniPassEE クライアント PC から登録する方法を説明いたします。

サーバ側の管理コンソールから登録する場合は、サーバ管理者までお問い合わせください。

(参照：OPEE 管理者マニュアル「2-5-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録」)

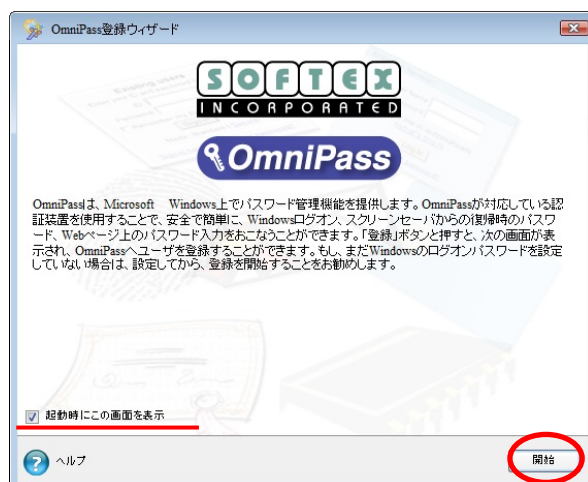
OmniPass をインストールし、PC を再起動すると以下の登録画面が表示されます。

(OmniPassEE クライアント PC から登録する場合は、接続するサーバで作成されたユーザ名・パスワードが必要になります。登録を行う前に、必ずシステム管理者に正しい ID・パスワードを確認して下さい。)

STEP 1

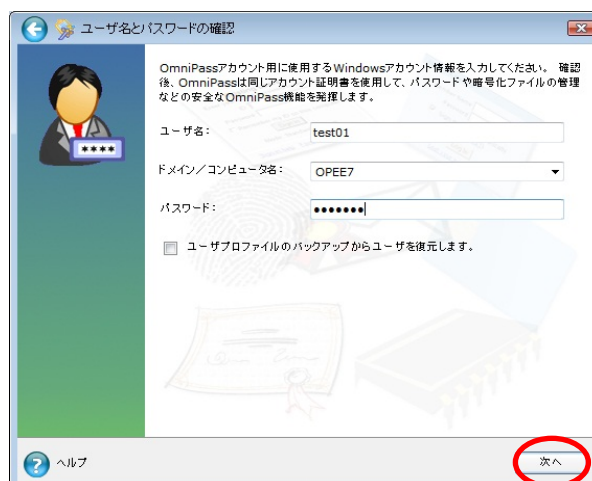
クライアントアプリケーションのインストール後、はじめて OmniPassEE クライアントユーザが OmniPassEE クライアント PC にログオンすると、[OmniPass 登録ウィザード]が起動しますので、「開始」をクリックします。

初期設定では、ログオン時に毎回登録画面が表示されます。以降、登録画面を表示しない場合は「起動時にこの画面を表示」のチェックを外してください。



STEP 2

OmniPassEE クライアントユーザのユーザ名、ドメイン名、パスワードを入力し「次へ」をクリックします。



STEP 3

使用するデバイスを選択し「次へ」をクリックします。

(以降の登録内容は SREX-FSU2 センサーでの例となります。)




STEP 4

登録する指を選択し「次へ」をクリックします。

(指先を囲んでいる四角い点線をクリックすると、使用する指が選択できます。)

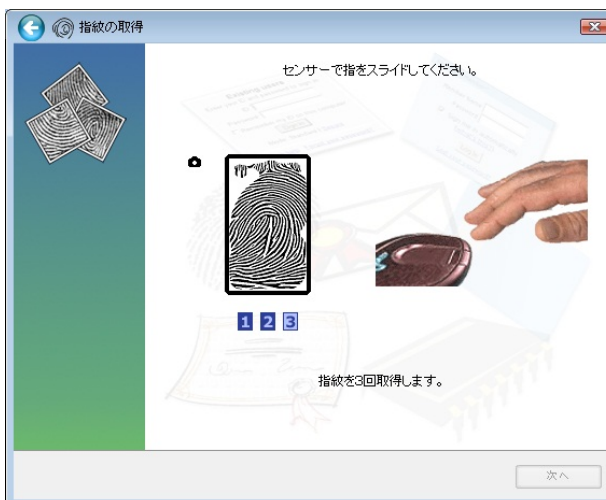
指の選択画面には「練習」ボタンがあり、クリックすると指紋のキャプチャを練習できます。問題なくキャプチャされるようでしたら、指紋の取得に進みます。

 指の乾燥状態、傷などにより、指紋が正しく認識されない場合があります。



STEP 5

画面の表示に従って指紋の取得を行います。




STEP 6

登録が正常に完了すると

「登録に成功しました。」のメッセージが表示されます。

「次へ」をクリックします。

 指紋が赤色で表示され、「登録に失敗しました。」のメッセージが出る場合は、もう一度確認をやり直す必要があります。

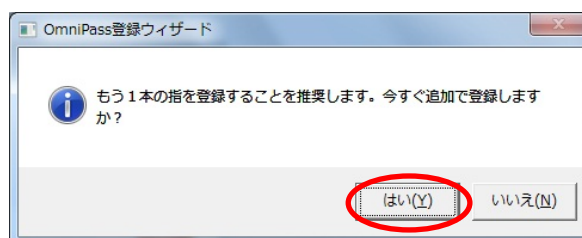


STEP 7

「もう 1 本の指を登録することを推奨します。今すぐ追加で登録しますか？」の画面が表示されます。

さらに別の指の指紋登録をする場合は「はい」をクリックします。

STEP 4 の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。

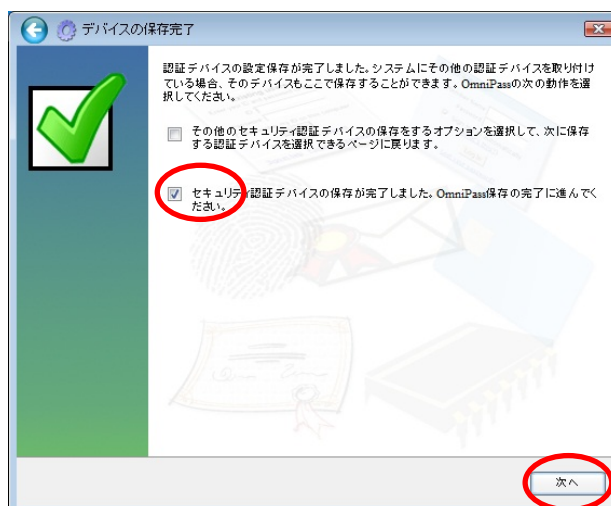


STEP 8

指紋の登録が完了した場合は「セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass 保存の完了に進んでください。」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。

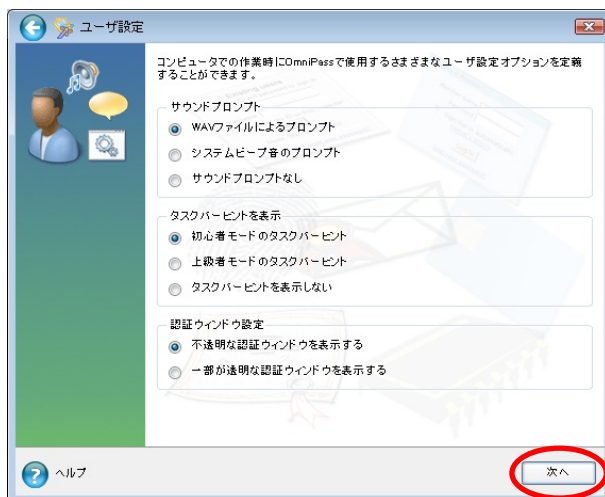
「その他のセキュリティ認証デバイスの保存をするオプションを選択して、次に保存する認証デバイスを選択できるページに戻ります。」にチェックを入れ「次へ」をクリックした場合は、


STEP3 からの登録作業となり、指の追加登録および他の認証デバイスでの登録を行うことができます。



STEP 9

サウンド、タスクバー、認証ウィンドウの設定を行います。設定内容を確認し「次へ」をクリックします。



 各種の OmniPassEE イベントをユーザに通知する方法を選択できます。

OmniPassEE クライアントの操作方法に慣れるまで、[サウンドプロンプト]を「WAV ファイルによるプロンプト」または「システムビープ音のプロンプト」に、[タスクバーヒントを表示]を「初心者モードタスクバーのヒント」に設定することをおすすめします。

[サウンドプロンプト]

「WAV ファイルによるプロンプト」： WAV ファイル音声による警告音を鳴らします。

「システムビープ音のプロンプト」： システムビープ音による警告音を鳴らします。

「サウンドプロンプトなし」： 警告音を OFF にします。

[タスクバーヒントを表示]

「初心者モードのタスクバーヒント」： 詳細な説明を表示します。

「上級者モードのタスクバーヒント」： 簡潔な説明を表示します。

「タスクバーヒントを表示しない」： タスクバーヒントを表示しません。

[認証ウィンドウ設定]

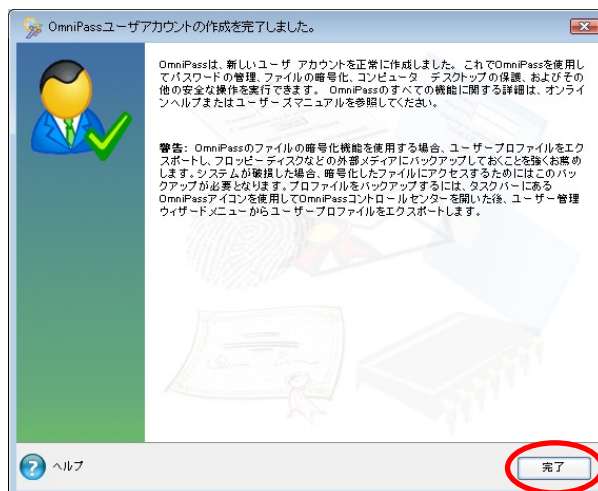
「不透明な認証ウィンドウを表示する」： 認証時に表示されるウィンドウが不透明ではありません。

「一部が透明な認証ウィンドウを表示する」： 認証時に表示されるウィンドウが不透明です。

STEP 10

以上で OmniPassEE クライアントユーザの登録は完了です。

「完了」をクリックします。



■OmniPass 認証ダイアログ

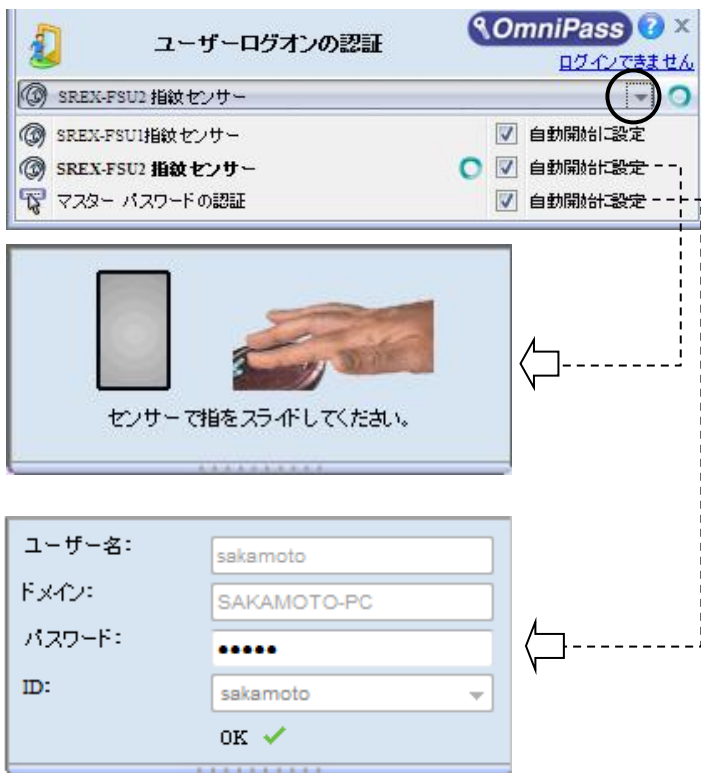
Windows を再起動すると、従来の Windows のログオンでは表示されなかった OmniPass 認証ダイアログが表示されます。これは、OmniPass 認証システムが呼び出されると常に表示されます。OmniPass 認証システムは、以下の場合に呼び出されます。

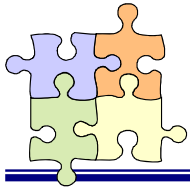
- (1) Windows のログオン時
- (2) OmniPass のログオン時
- (3) ワークステーションのロック解除時
- (4) スリープ/スタンバイまたは休止状態からの復帰時 (OmniPass とは別に設定が必要です)
- (5) パスワード対応のスクリーンセーバーのロック解除時
- (6) パスワード等を OmniPass に記憶したサイトを開いた時
- (7) ファイルまたはフォルダの暗号化・復号化実行時



OmniPass 認証ダイアログの プルダウン ボタンをクリックすると、各指紋センサーと「マスターパスワードの認証」の選択バーが表示されます。

右図で各認証方法をクリックすると、選択した認証画面が表示されます。





4-1. アカウント情報の記憶

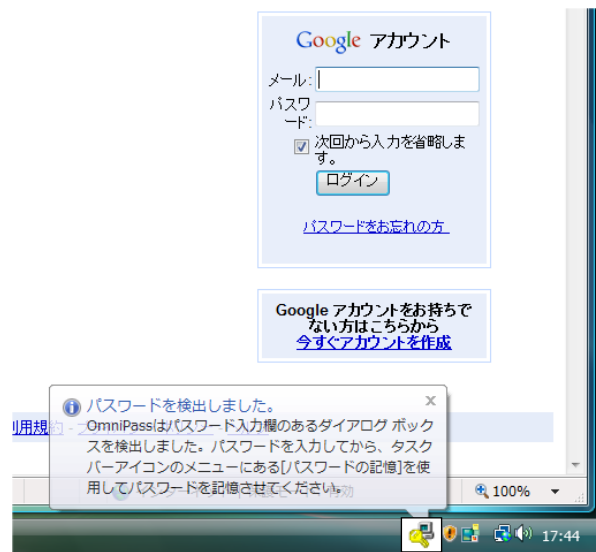
OmniPass アカウント情報の記憶を行うことにより、アカウント入力（ユーザ ID、パスワード）が必要な Web サイトに指紋認証により自動的にログオンすることができます。何種類ものパスワードを覚えておく必要はありません。



OmniPassEE 8.x が対応しているブラウザは Microsoft Internet Explorer です。
すべてのバージョンでの動作は保証されていません。

■ Web ログオンパスワードの記憶

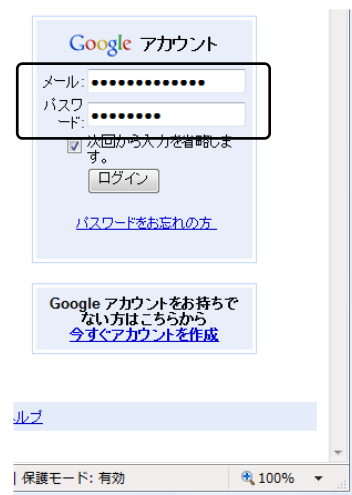
1 アカウント入力を要求する Web サイトが開かれると、OmniPass はアカウント入力が要求されたことを自動検出し、「パスワードを検出しました」というメッセージを表示します。



2 アカウント情報（右の Web サイトでは、ユーザのメールアドレスとパスワード）を入力した状態にします。

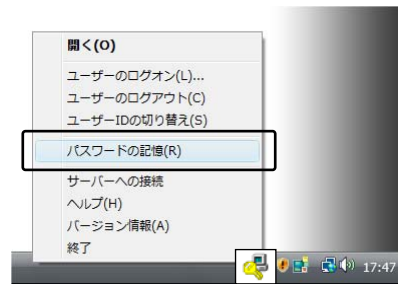


アカウント情報（ユーザ ID、メールアドレス、パスワード等）にかな漢字コードを使用できない場合があります。



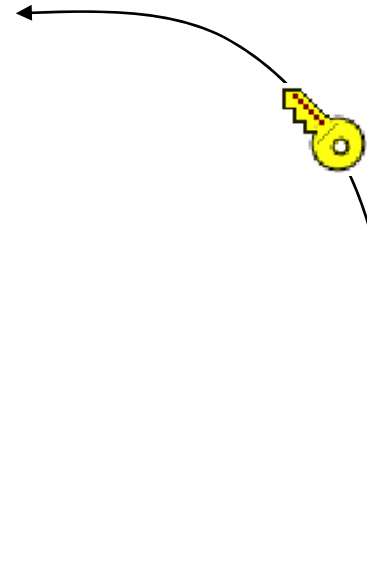
3

タスクバーの OmniPass コントロールセンタ
を右クリックし、右クリックメニューより
「パスワードの記憶(R)」を選択します。

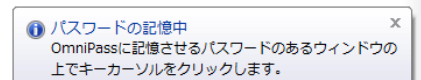
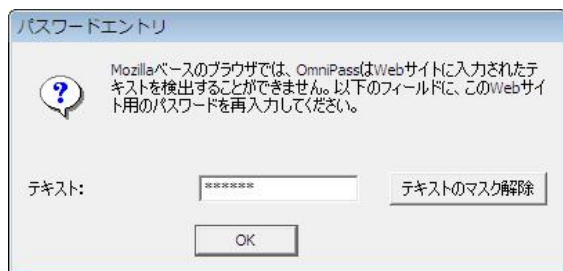


4

「パスワードの記憶中」が表示された状態
で、OmniPass キー（右図の鍵マーク）をログ
オンプロンプト（アカウント入力ダイアロ
グ）の近くにドラッグします。



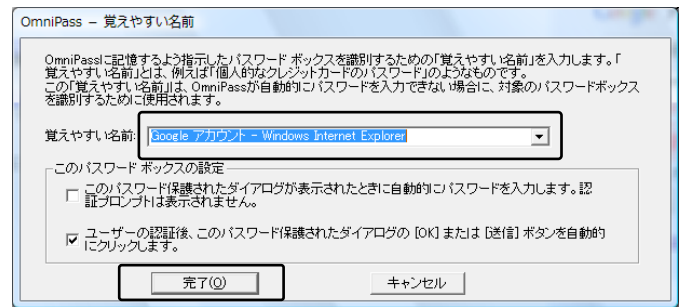
※ ブラウザが Firefox の場合、パスワード
の記憶時に次の「パスワードエントリ」
ダイアログが出力されますので、こちら
でパスワードの登録が必要となります。



5

OmniPass がアカウント情報を記憶すると、「覚えやすい名前」のダイアログが表示されます。「覚えやすい名前」を編集入力し、「完了(O)」ボタンをクリックします。

OmniPass に記憶させたアカウント情報は「パスワードの管理」に保管されています。



すでに OmniPass に記憶させた Web サイトに対して「パスワードの記憶」を再実行すると、OmniPass は現在記憶している Web サイトのアカウント情報（ユーザ ID やパスワード）を上書き更新します。

例えば、アカウントページのパスワードを **XXXXXX** で、すでに OmniPass に記憶させていたとします。ところが、ある日、新しいパスワード：**YYYYYY** への更新案内が送られてきて、今後は新しいパスワード：**YYYYYY** でログオンしなければいけなくなったと仮定します。その場合、アカウントページにアクセスして、OmniPass にログオンさせる代わりに新しいパスワード：**YYYYYY** を入力します。その後「ログオン」をクリックしないで、パスワードの記憶を使用してカーソルを OmniPass キーに変え、ログオンプロンプトの近傍をクリックします。OmniPass は確認を要求し、続いてアカウント情報を上書きします。上記の操作により、OmniPass に記憶させたユーザ ID は同じですが、パスワードは **XXXXXX** から **YYYYYY** へ更新されます。

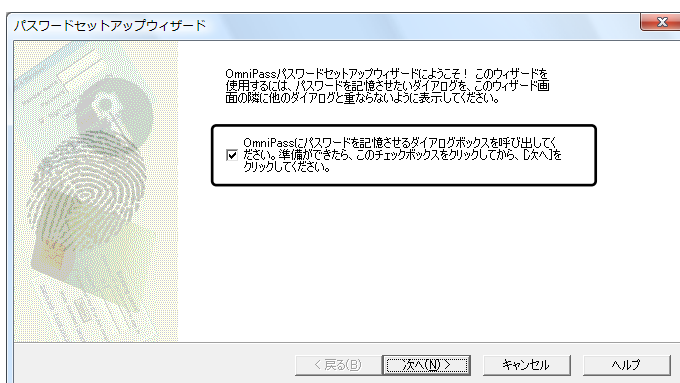
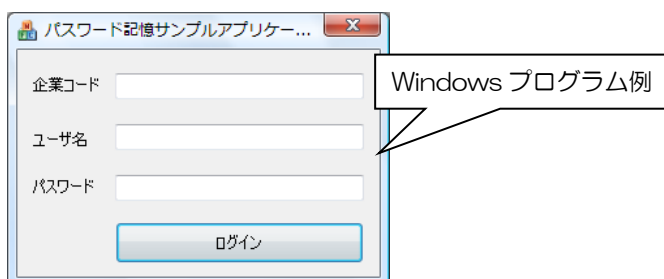
■アプリケーションログオンパスワードの記憶

OmniPass はアカウント入力が必要とするホームページ以外に、「パスワードセットアップウィザード」の機能を使って、アカウント入力が必要とする Windows プログラムのアカウント情報も記憶することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウント設定」メニューより、「パスワードウィザード」を選択します。



- 2 Windows プログラムのアカウント情報入力画面を「パスワードセットアップウィザード」の近くに表示させます。作業が終了したら、「OmniPass にパスワードを記憶させるダイアログボックスを呼び出してください。・・・」をチェックし、「次へ(N)」をクリックします。

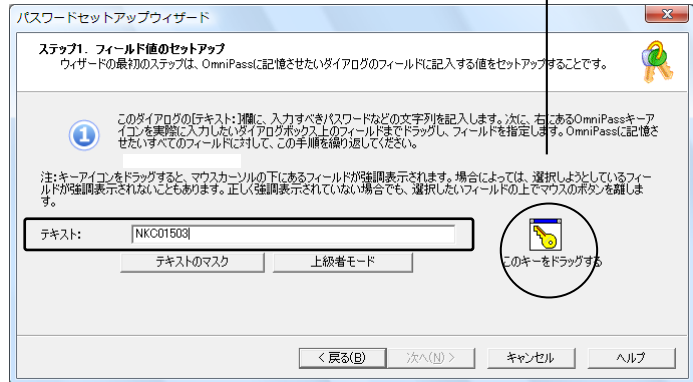
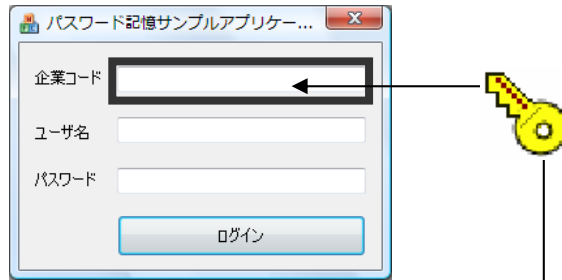


3

パスワードセットアップウィザードの「テキスト」欄に適切なアカウントデータを入力し、「このキーをドラッグ」をドラッグし、Windows プログラムの該当入力欄の上へドロップします。右 Windows プログラムの例では、最初に企業コードのフィールド設定を行っています。



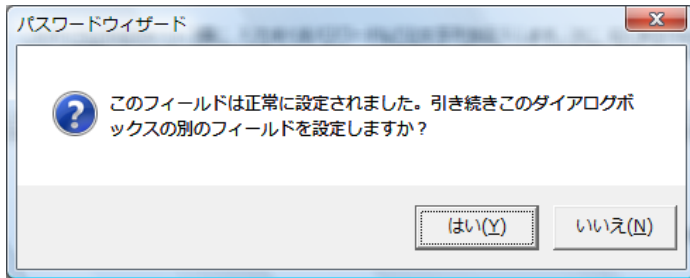
Windows プログラムの入力欄へ直接入力しないでください。



4

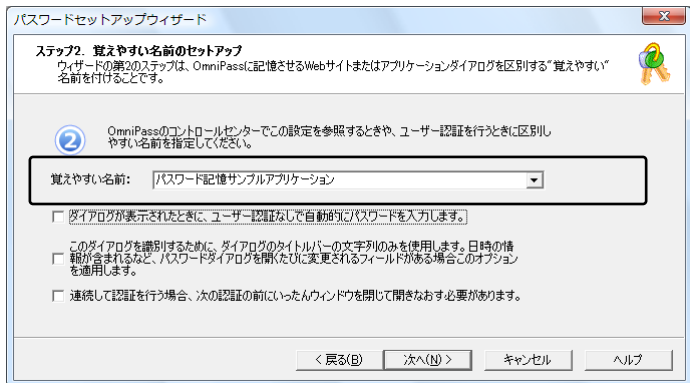
一つのフィールドの設定が終了すると右確認メッセージが表示されます。引き続きフィールド入力を行う場合は「はい (Y)」をクリックします。右の例では、企業コードの次に「ユーザー名」と「パスワード」の設定が必要です。

全ての入力が完了したら、「いいえ (N)」をクリックします。



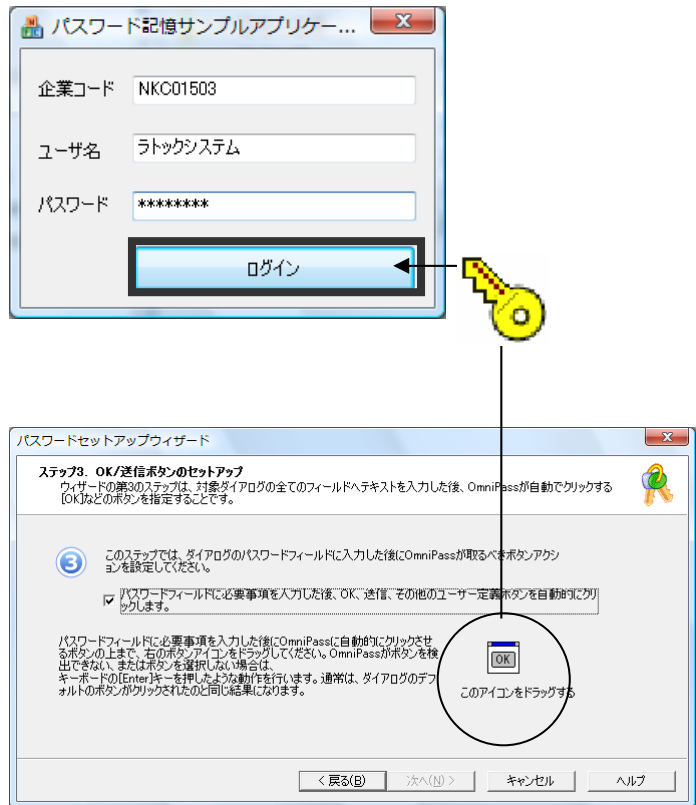
5

Windows プログラムの名前を「覚えやすい名前」に入力し、「次へ(N)」をクリックします。



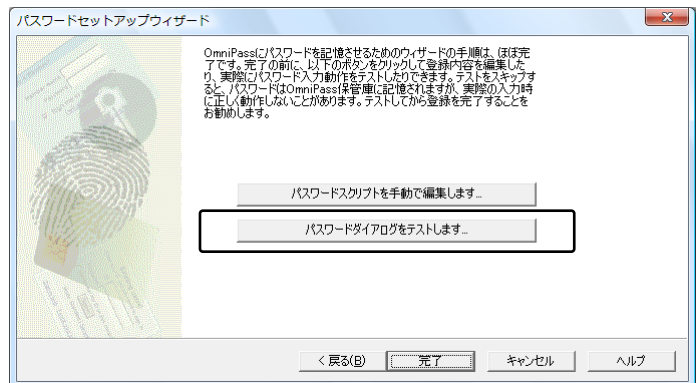
6

Windows プログラムで最後に操作するボタンを指定します。「このアイコンをドラッグ」をドラッグし、操作するボタンの上へドロップします。OmniPass への記憶操作は以上で終了です。「次へ(N)」をクリックします。



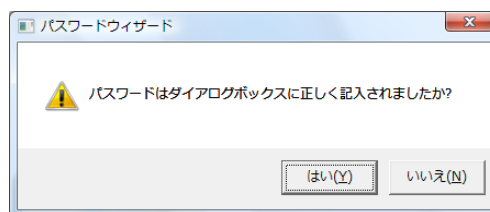
7

「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。

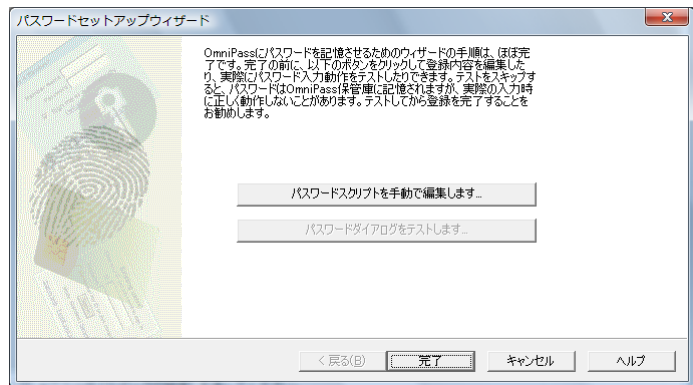


8

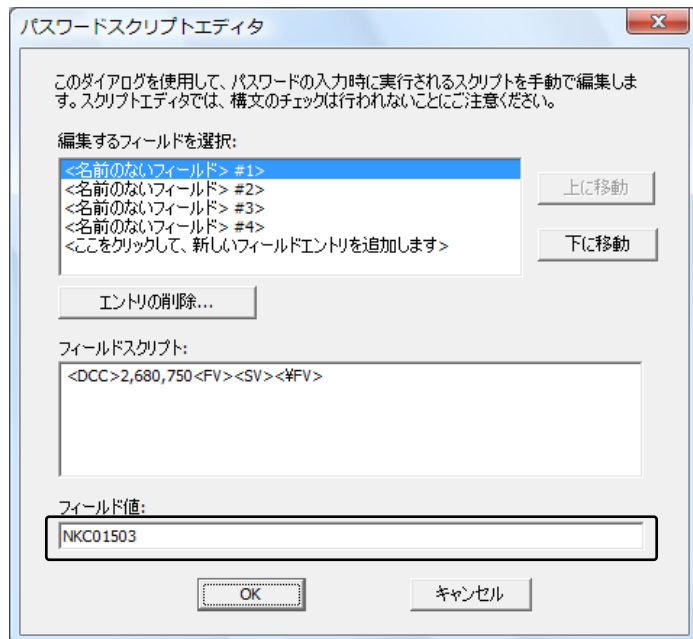
テスト結果に問題がなければ、「はい(Y)」をクリックします。



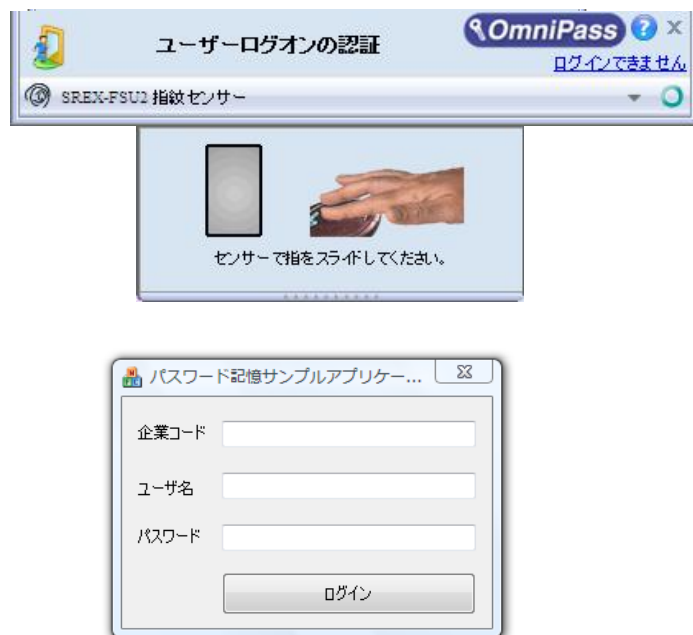
9 最後に「完了」をクリックします。



10 手順7で「パスワードスクリプトを手動で編集します」をクリックすると、右スクリプト編集画面が表示されます。編集が必要な場合は、ここで編集することができます。



次回より、Windows プログラムのアカウント入力が表示されると、OmniPass 指紋認証ダイアログが表示されます。アカウント情報を入力する代わりに、OmniPass の指紋認証だけでログオンすることができます。



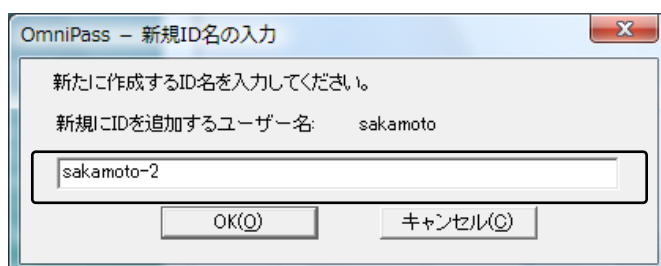
■ ID の管理

一人の人が同一の Web サイトで複数のアカウントを取得している場合についても、OmniPass にアカウント情報を記憶させて OmniPass 指紋認証機能を使用することができます。複数のアカウントを管理する場合は、一人のユーザに対して複数の ID を作成し、それぞれの ID に一つのアカウント情報を設定します。

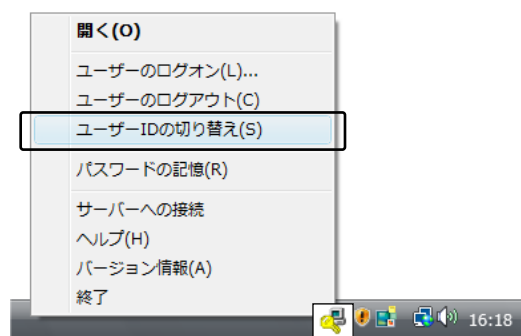
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。
新しい ID を追加する場合は、「新規 ID」をクリックします。



- 2 「ユーザ名に対する新規 ID」を入力し、「OK(O)」をクリックします。OmniPass コントロールセンタの設定は以上です。

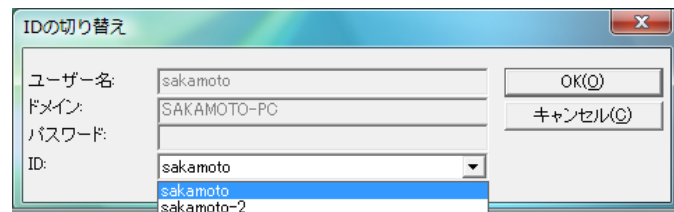


- 3 同一の Web サイトで複数のアカウント情報を記憶させる場合は、「ログオンパスワードの記憶」を行う前に「ユーザ ID の切り替え(S)」を行い、ユーザ ID ごとに一つのアカウントを記憶させます。
ユーザ ID の変更は、タスクバーの「OmniPass コントロールセンタ」を右クリックし、「ユーザ ID の切り替え(S)」を選択します。



4

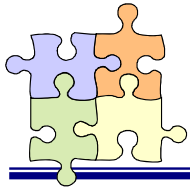
「ID の切り替え」ダイアログより、変更したい ID を選択します。ID 変更後、ログオンパスワードの記憶を実行します。



5

各ユーザ ID の「パスワード管理」は、OmniPass コントロールセンタの「アカウントの管理」のページの「パスワード管理」より行うことができます。右の「ID」を選択することにより、ID ごとに記憶されたパスワード情報等が表示されます。





4-2. 暗号化と復号化

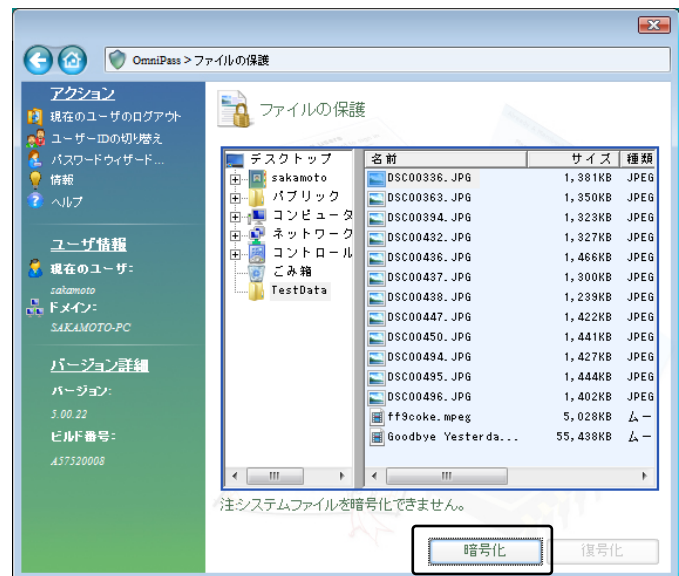
OmniPass はフォルダ単位・ファイル単位での暗号化と復号化を行うことができます。また、OmniPass 暗号化ファイルは複数の OmniPass 登録ユーザと共有することができます。

■暗号化

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」を選択します。暗号化を行うフォルダもしくはファイルを選択し、「暗号化」をクリックします。



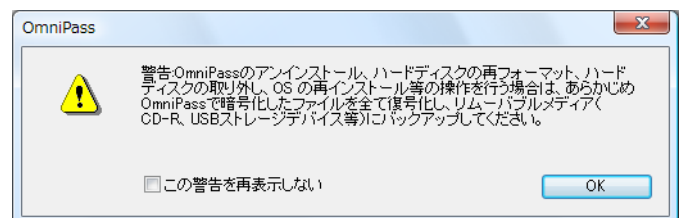
“C:\Windows” に格納された Windows のシステムファイル、“C:\Program Files” にインストールされたプログラム、OmniPass がインストールされているフォルダは、暗号化することができません。



- 2 暗号化のための認証を行います。

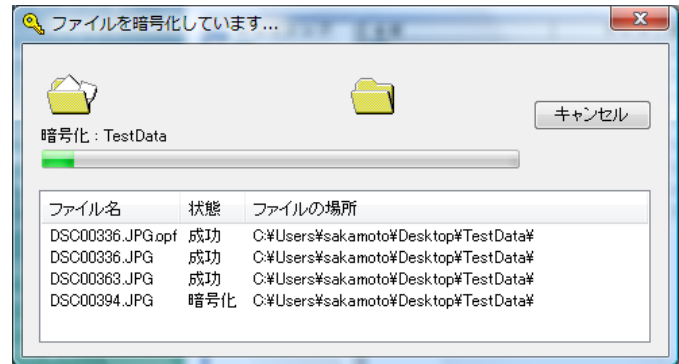


- 3 暗号化を行うための認証が完了すると警告メッセージが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。



4

暗号化が行われます。



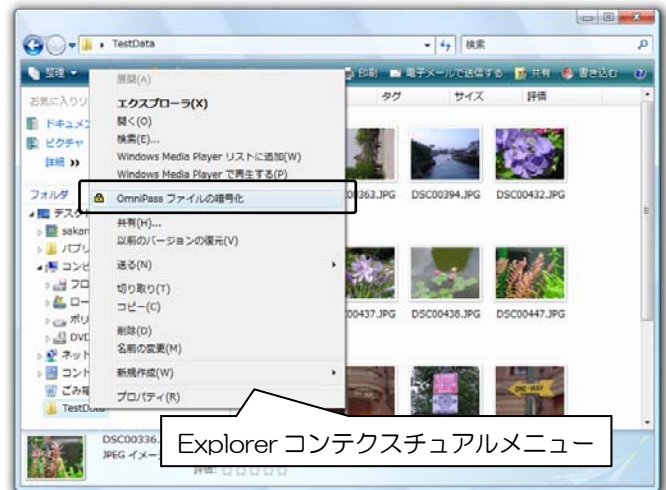
5

暗号化を行ったフォルダもしくはファイルは鍵の付いた新しいアイコンで表示されます。ファイルの拡張子は「.opf」、フォルダの拡張子は「.opef」に変換されます。



6

暗号化の操作は Windows Explorer から行うこともできます。マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの暗号化」を選択すると上記と同じ暗号化の操作を行うことができます。



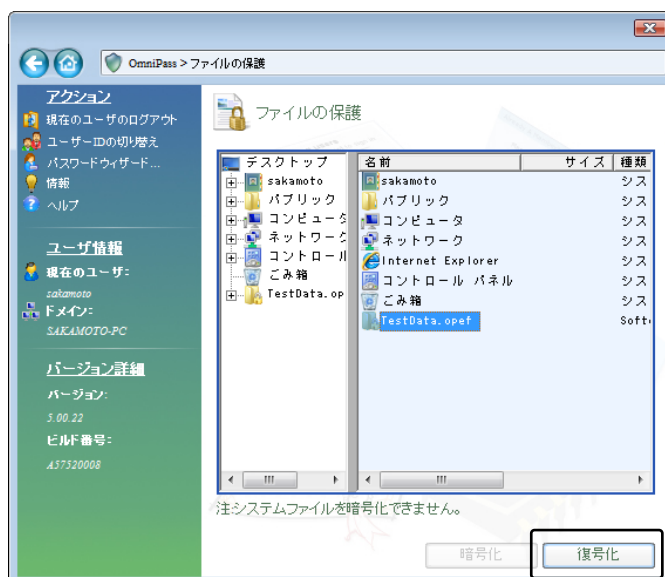
■復号化

1

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」のページを選択します。

復号化を行いたいフォルダもしくはファイルを選択し、「復号化」をクリックします。

マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの復号化」を選択して、復号化の操作を行うこともできます。



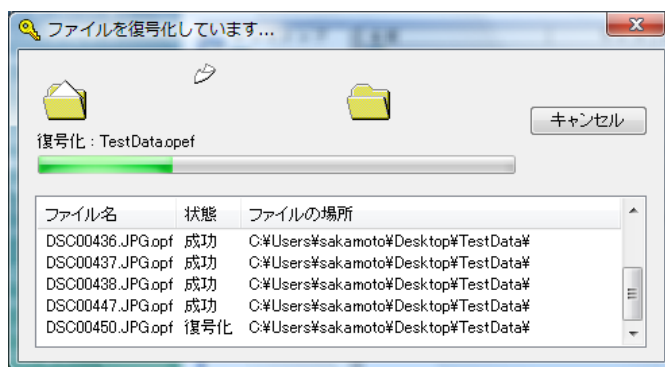
2

復号化のための認証を行います。



3

認証に成功すると自動的に復号化が行われます。



復号化を行う方法として、Explorer に表示された暗号化ファイル・暗号化フォルダをマウスから直接ダブルクリックする方法があります。

フォルダをダブルクリックすると暗号化フォルダは一旦復号化されますが、フォルダ内の暗号化ファイルを編集し、フォルダを閉じると暗号化された状態になります。

暗号化ファイルの場合、ダブルクリックで開くと復号化されます。

■暗号化ファイルの共有

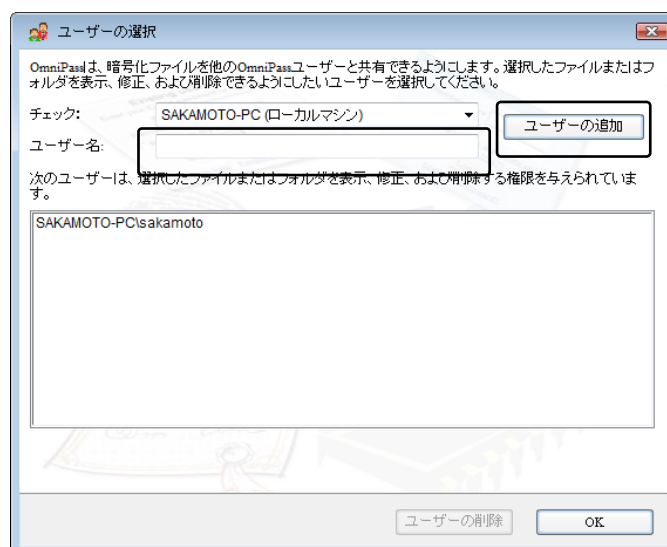
- 1 Windows Explorer からマウスの右クリックでメニューを表示し、「OmniPass 暗号化ファイルの共有」を選択します。



- 2 暗号化ファイル共有のための認証を行います。

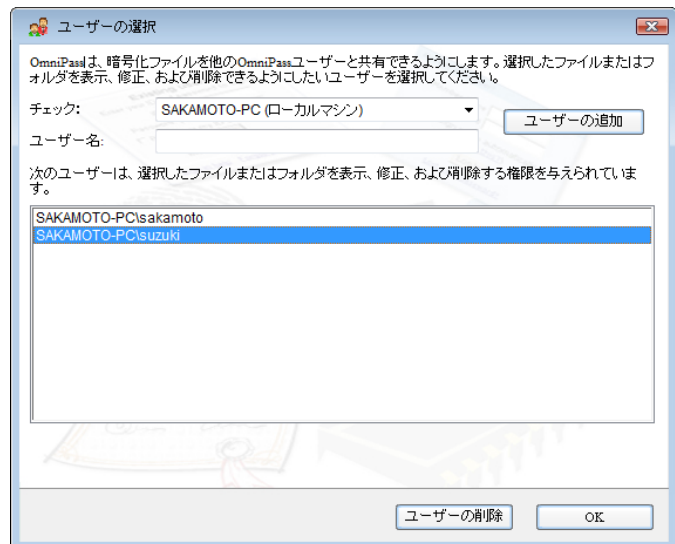


- 3 暗号化ファイルの共有を行いたい OmniPass に登録されたユーザ名を入力し、「ユーザの追加」のボタンをクリックします。



4

下部の一覧に共有化を許可するユーザーが追加されます。



OmniPass 暗号化ファイルやフォルダを共有すると、共有するユーザーとの間で共有されたリソースを効果的に制御することができます。一旦共有の許可を行うと、許可されたユーザーはすべてのファイルのコピー・編集を行うことができ、更には OmniPass ユーザーのリストから全てのユーザーを排除することができます。許可を与えたユーザーが暗号化されたリソースの制御をできないようにすることも可能となりますので、注意してください。



ファイルの共有を許可されたユーザーが復号化の操作を行う場合は、ユーザーは OmniPass にログオンする必要があります。OmniPass にログオンしていない状態で、ファイルの復号化を行うことはできません。

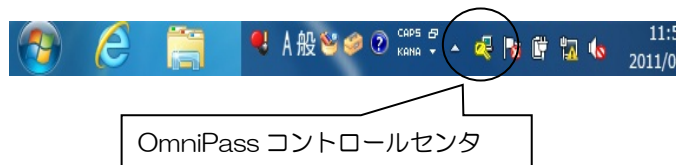
第5章 管理と設定

5-1. ユーザの追加と削除

OmniPassEEクライアントPCからOmniPassEEクライアントユーザの追加と削除を行うことができます。OmniPassEEクライアントユーザとして追加するには、サーバ側のActive Directoryで作成されたクライアントユーザ名とパスワードが必要となります。

■ユーザの追加

1 タスクバーに格納された鍵マーク (OmniPass コントロールセンタ) をダブルクリックします。

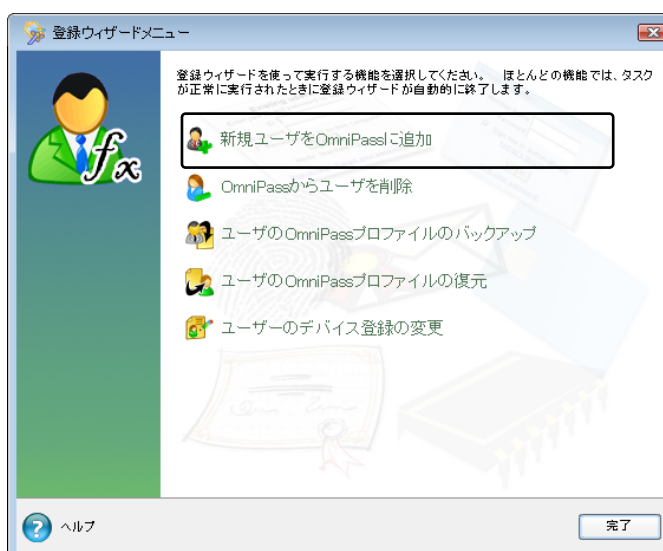


2 「登録ウィザードの実行」を選択します。



3 次に「新規ユーザを OmniPass に追加」を選択します。

以降の操作は、「3-3. OmniPassEE クライアントユーザの登録」で説明されている手順2からと同様にユーザ登録を行います。



■ユーザの削除



ユーザを削除すると、そのユーザに関連付けられた OmniPass データは自動的に破棄されます。また、そのユーザが暗号化したファイルは復号化できなくなります。

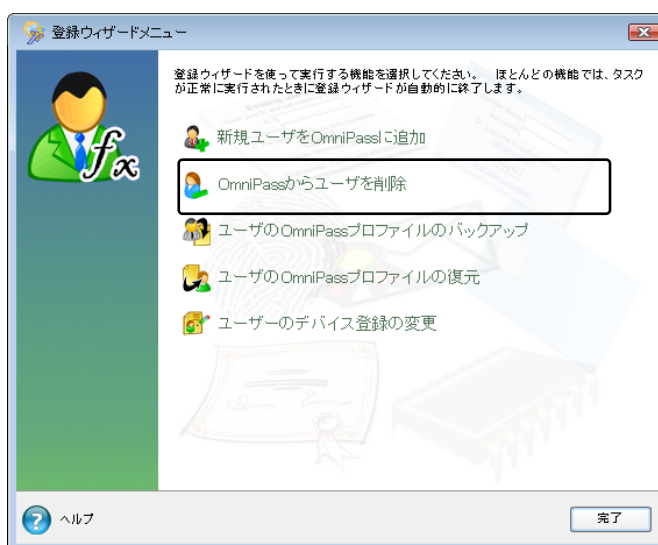
削除を行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) OmniPass ユーザプロファイルのバックアップを行う。
- (2) 全ての OmniPass 暗号化ファイル・フォルダを復号化する。
- (3) 記憶させた Web およびアプリのアカウント・パスワード情報のメモを取っておく。

1

OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

右画面より「OmniPass からユーザを削除」をクリックします。



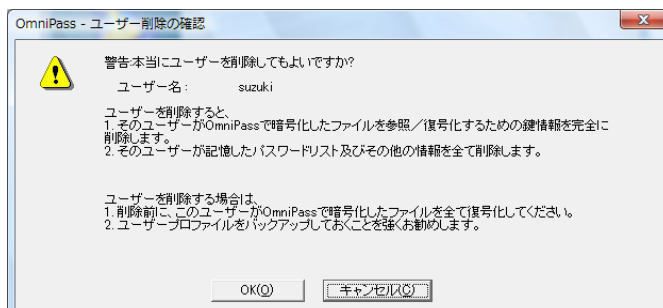
2

削除を行うユーザの指紋認証を行います。

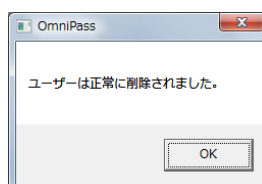


3

削除されるユーザ名と警告の内容を確認して、事前に適切な処置を行った後、問題がなければ「OK(O)」をクリックします。



削除完了確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



第5章 管理と設定

5-2. アカウント情報の管理

「ログオンパスワードの記憶」で OmniPass に記憶させたパスワード情報をパスワードの管理で参照することができます。万が一、パスワードを忘れた場合にも確認できます。

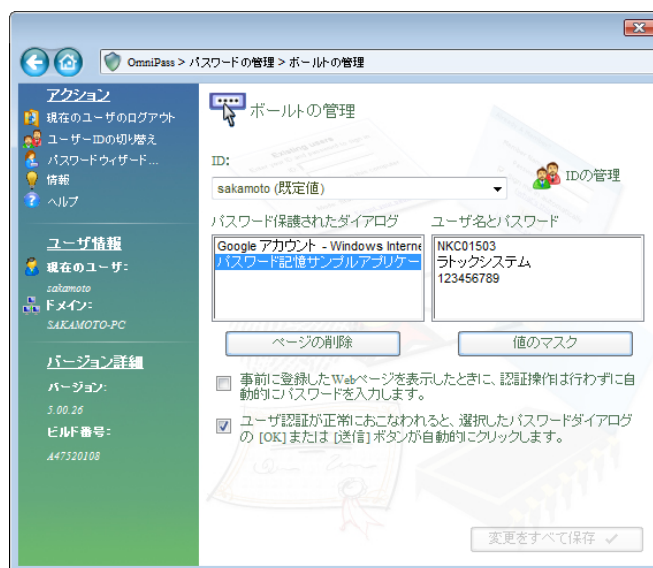
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。



- 2 「パスワードの管理」を開くためには、右の認証作業を行います。



- 3 「パスワード保護されたダイアログ」に OmniPass が記憶した Web サイトおよび Windows プログラムの名前が表示されます。「ユーザ名とパスワード」に各サイトのアカウント情報が表示されます。「値のマスク解除」をクリックしてパスワードの内容を確認できます。また、「ページの削除」をクリックして、記憶した情報を削除することができます。

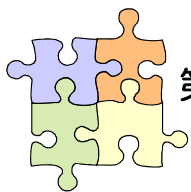


OmniPass による記憶されたサイトの処理方法には、下記の 3 つの設定があります。

- (1) 「事前に登録した Web ページを表示したときに、認証操作は行わずに自動的にパスワードを入力します。」
- (2) 「ユーザ認証が正常におこなわれると、選択したパスワードダイアログの「OK」または「送信」ボタンを自動的にクリックします。」
- (3) 上記のいずれにもチェックを入れない設定。

4-1. アカウント情報の記憶の手順 4 で設定した内容が表示されます。

- (1) の設定は、あまり安全ではありません。(1) の設定を有効にすると、このサイトに移動するたびに、OmniPass は認証を要求せずにサイトに自動的にログインします。
 - (2) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証が要求されます。認証に成功すると、このサイトに自動的にログインします。
 - (3) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証を要求します。認証に成功すると、サイトの入力位置へアカウント情報 (ユーザ ID やパスワード) は自動的に記入されますが、サイトにログインするためには、Web サイトの OK、送信、またはログインボタンをクリックする必要があります。
-

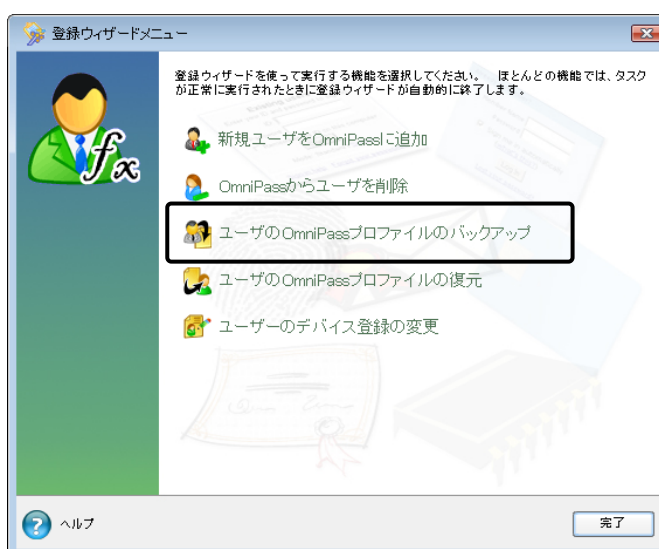


ユーザプロファイルのバックアップにより、OmniPass に記憶させたサイトのアカウント情報、登録した指紋データをバックアップすることができます。OmniPass のアンインストールを行う前に、必ずユーザプロファイルのバックアップを行ってください。

職場のパソコンで暗号化したファイルを自宅のパソコンに持ち帰って復号化したいというような場合、暗号化を行ったパソコンでバックアップしたユーザプロファイルを復号化したいパソコンに復元します。

■ユーザプロファイルのバックアップ

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」をクリックします。

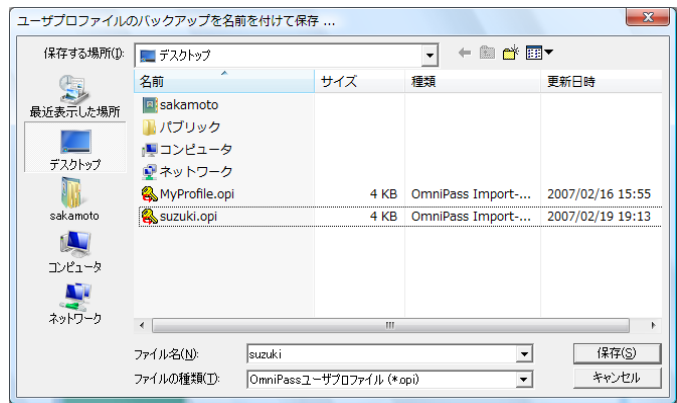


- 2 バックアップのための認証を行います。



3

バックアップファイルの保存先とファイル名を設定し、「保存(S)」をクリックします。

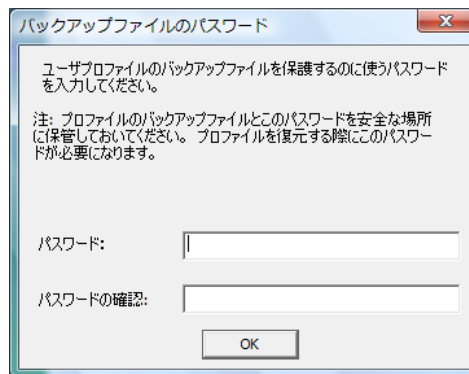


4

バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

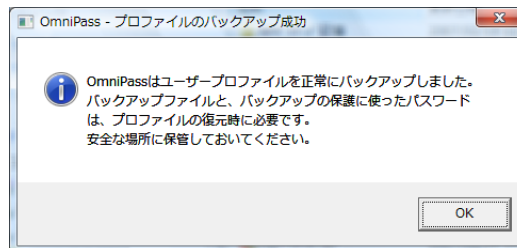


このパスワードは復元の際に使用しますので、必ず他の場所に記録しておくようにします。



5

「プロファイルのバックアップ成功」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。
保存した場所に「xxx.opi」ファイルが作成されます。



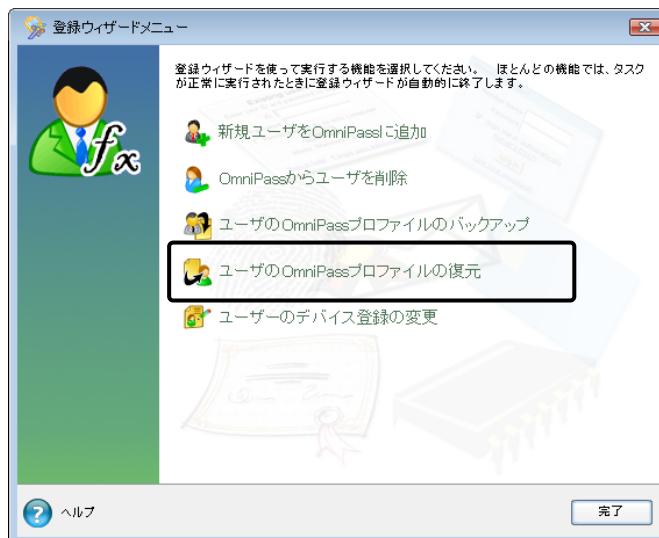
■ ユーザプロファイルの復元

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

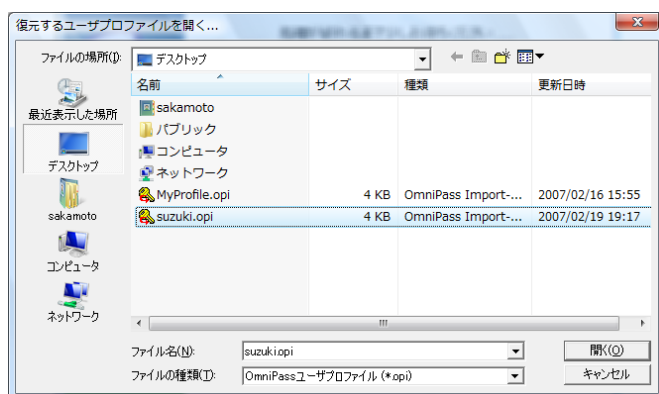
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」をクリックします。



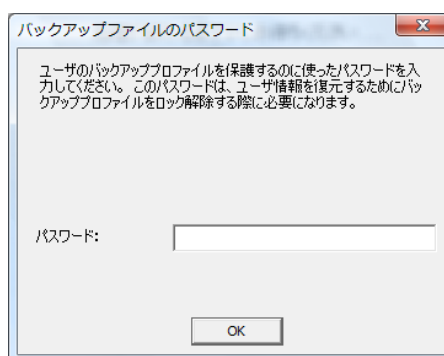
同じ名前のユーザが既に登録されている場合、プロファイルを復元することはできません。



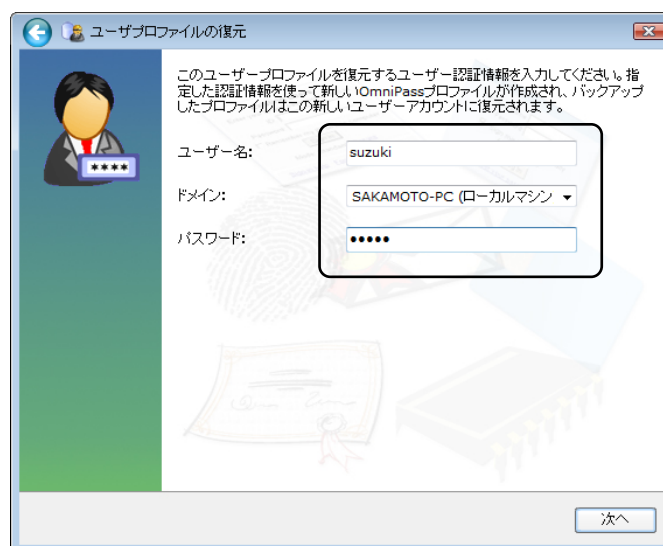
2 復元したいユーザプロファイルが保存されている場所とファイル名を指定し、「開く(O)」をクリックします。



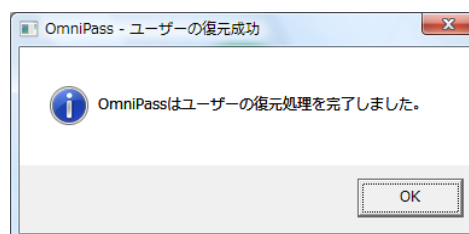
3 ユーザプロファイルのバックアップを行ったときに設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

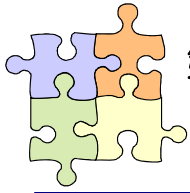


- 4 ユーザプロファイルのバックアップを行った時に使用していた「ユーザ名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。



- 5 「ユーザのインポート完了」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。





第5章 管理と設定

5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

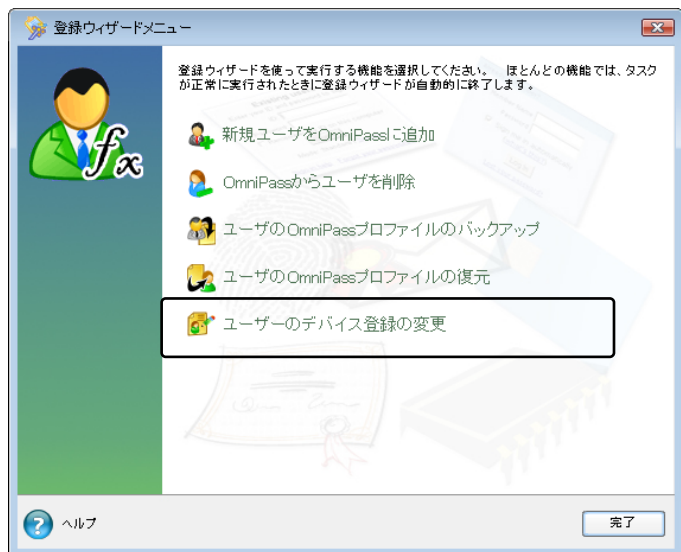
OmniPass のその他の設定機能について説明します。

5-4-1. ユーザのデバイス登録の変更

「認証デバイスの登録」は、すでに登録されたユーザに対し、指紋データの追加登録を行う場合に使用します。

また、認証デバイスの追加もこの項目から行います。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。右画面より「ユーザのデバイス登録の変更」をクリックします。

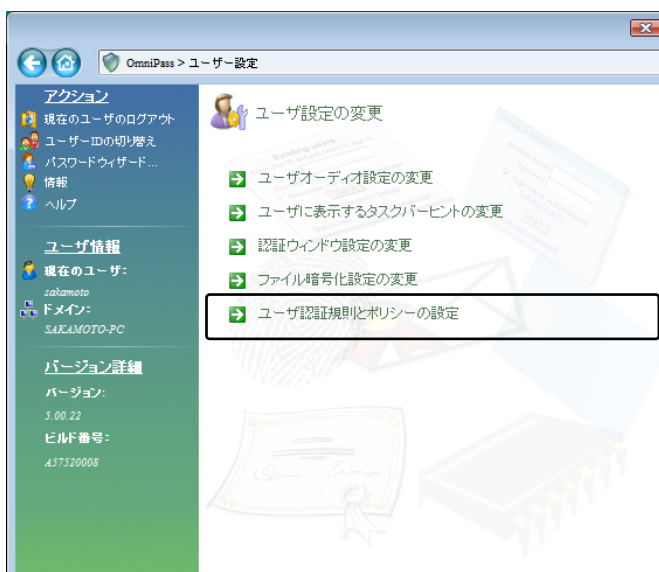


- 2 登録に使用するセンサを選択して、「次へ」をクリックします。以後の操作は、「3-3. OmniPassEE クライアントユーザの登録」の手順 3 からと同様になります。



5-4-2. 認証デバイスの必須設定

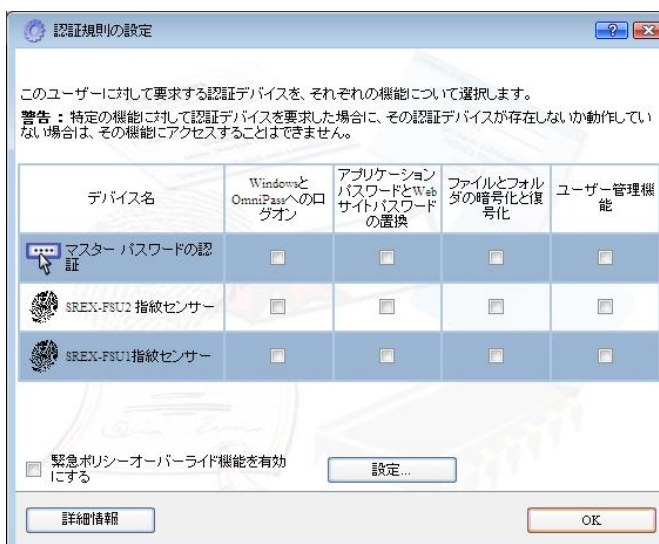
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。右画面より「ユーザ認証規則とポリシーの設定」をクリックします。



- 2 認証規則の設定のための認証を行います。



- 3 認証デバイスの必須設定では、
 - ①Windows と OmniPass へのログオン
 - ②アプリケーションパスワードと Web サイトパスワードの置換
 - ③ファイルとフォルダの暗号化と復号化
 - ④ユーザ管理機能
 を行う際に、それぞれの認証方式(指紋認証/パスワード認証)を必須とするか否かの設定を行うことができます。

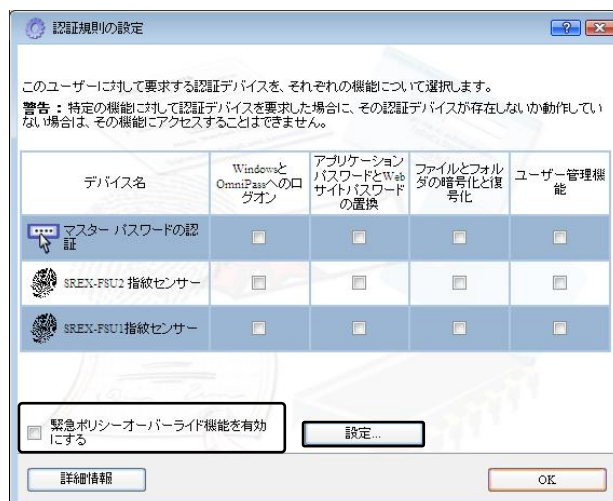


5-4-3. 緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」にチェックを入れると、認証が必要な操作で認証できない場合に、設定した回答を入力することで認証作業を回避することができます。

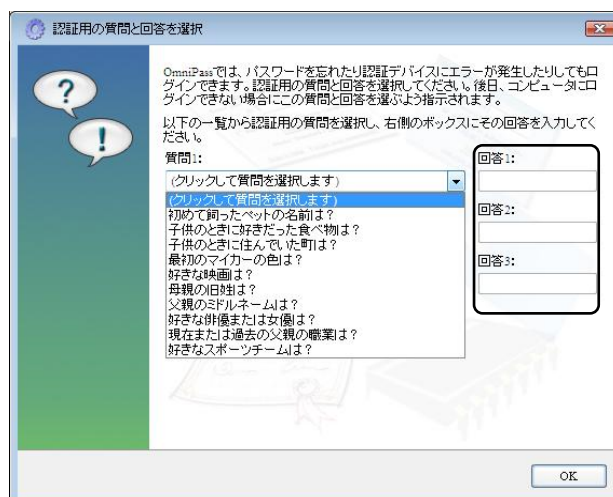
設定方法は以下の通りとなります。

「認証規則の設定」ダイアログで「設定」ボタンをクリックします。



「認証用の質問と回答を選択」ダイアログが出力されますので、質問 1~3 を選択し、回答 1~3 に回答を入力します。

「OK」ボタンをクリックします。



使用方法は以下の通りとなります。

認証画面の「ログインできません」をクリックします。



「緊急ポリシーオーバーライド」ダイアログが出力されますので、ユーザ名とドメイン名を入力し「OK」ボタンをクリックします。



設定した回答 1~3 を入力し「OK」ボタンをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "認証用の質問と回答を選択" (Select questions and answers for authentication). The text inside reads: "OmniPassでは、パスワードを忘れたり認証デバイスにエラーが発生したりしてもログインできます。以前に設定した認証用の質問の回答を入力してください。質問の右側にあるボックスに以下の質問の回答を入力してください。" (In OmniPass, you can log in even if you forget your password or an error occurs with the authentication device. Please enter the answers to the security questions you set up previously. Enter the answers to the following questions in the boxes on the right.)

The dialog contains three questions and three corresponding answer boxes:

| 質問: | 回答: |
|-----------------|-----|
| 初めて飼ったペットの名前は？ | |
| 子供のときに好きだった食べ物？ | |
| 子供のときに住んでいた町は？ | |

At the bottom right of the dialog is an "OK" button.

5-4-4. OmniPass へのログオン設定

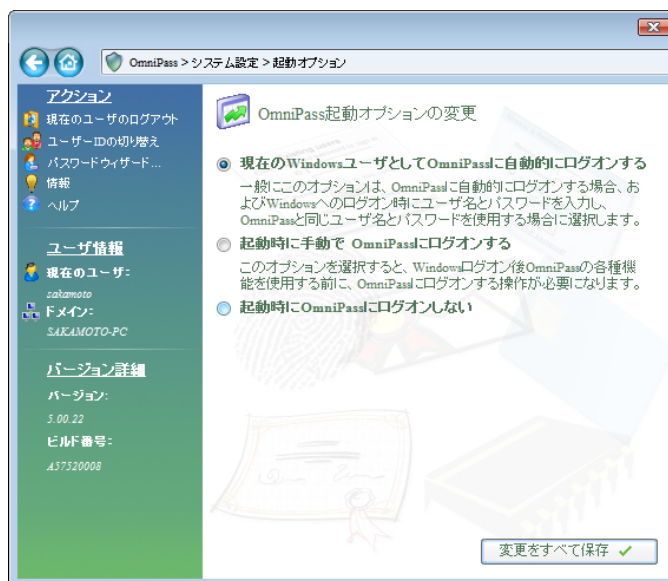
Windows ログオンユーザが OmniPass の機能を使用するためには、OmniPass へログオンする必要があります。

OmniPass コントロールセンタを起動します。右画面より、「システム設定の変更」メニューを選択し「OmniPass 起動オプションの変更」をクリックします。



「起動オプション」より 3 種類の OmniPass へのログオン方法を選択することができます。

- (1) 現在の Windows ユーザとして OmniPass に自動的にログオンする (デフォルト値)
- (2) 起動時に手動で OmniPass にログオンする
- (3) 起動時に OmniPass にログオンしない



(1) の設定が選択されていると、Windows にログオンした後、Windows 起動後に OmniPass に自動的にログオンします。

(2) の設定が選択されていると、OmniPass は Windows 起動後にユーザに OmniPass にログオンするように要求します。

(3) の設定が選択されていると、OmniPass はユーザに OmniPass にログオンするように要求しません。

タスクバーに登録された鍵マークの OmniPass 上にカーソルを移動することにより、現在 OmniPass にログオンしているユーザ名を確認することができます。

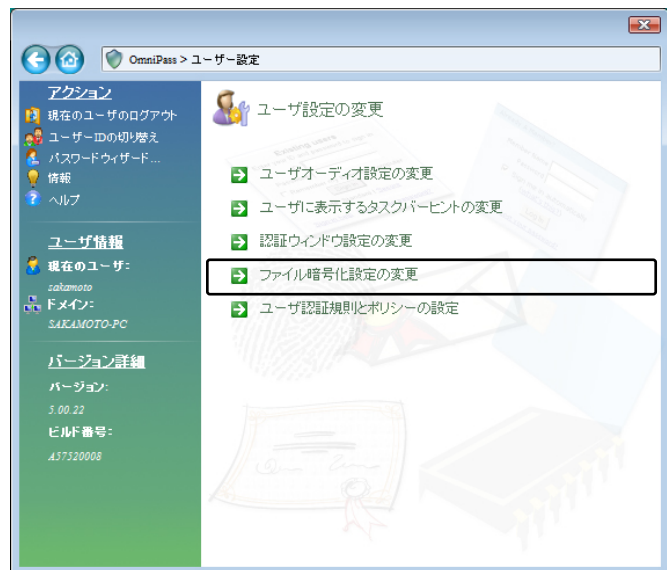
同様にマウス右クリックより、「ユーザのログオン(L)」もしくは「現在のユーザのログアウト(C)」を選択することにより、Windows を起動したまま OmniPass ログオンユーザを切り替えることができます。



5-4-5. 暗号化／復号化の設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

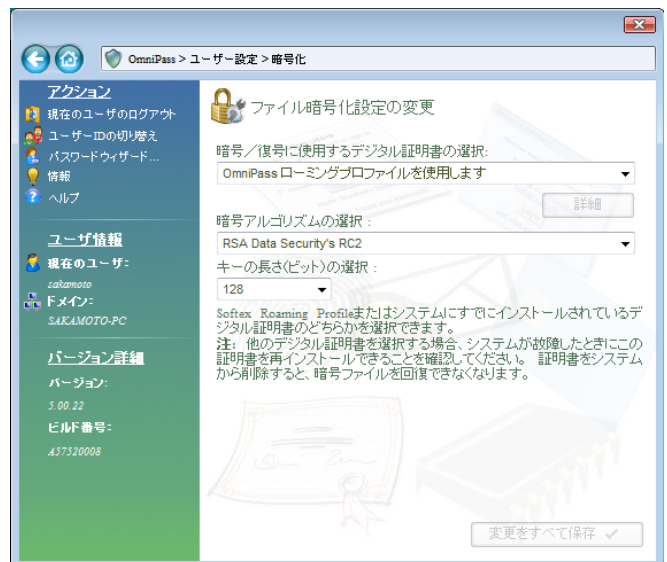
右画面より「ファイル暗号化設定の変更」をクリックします。



「アルゴリズムの選択」から、

- RSA Data Security's RC2
- RSA Data Security's RC4
- Data Encryption Standard (DES)
- Two Key Triple DES
- Three Key Triple DES

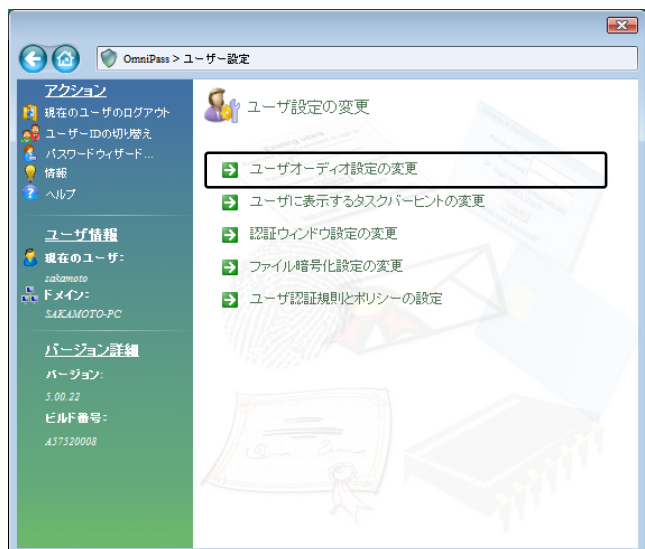
を選択することができます。



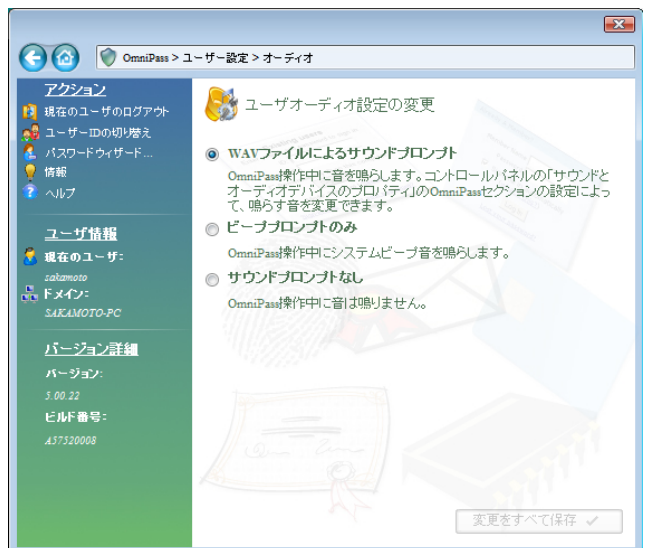
5-4-6. サウンドの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザー設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザーオーディオ設定の変更」をクリックします。



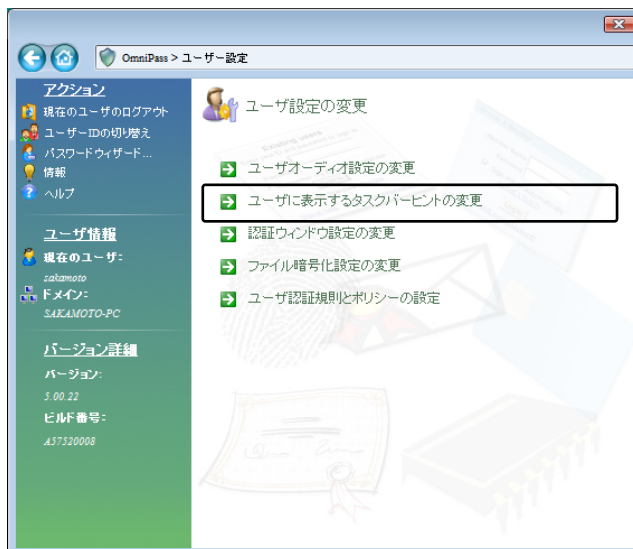
OmniPass のイベント (例えば、ログオン認証に成功した時、認証が拒否されたときなど) をサウンドでユーザーに通知する方法を設定できます。



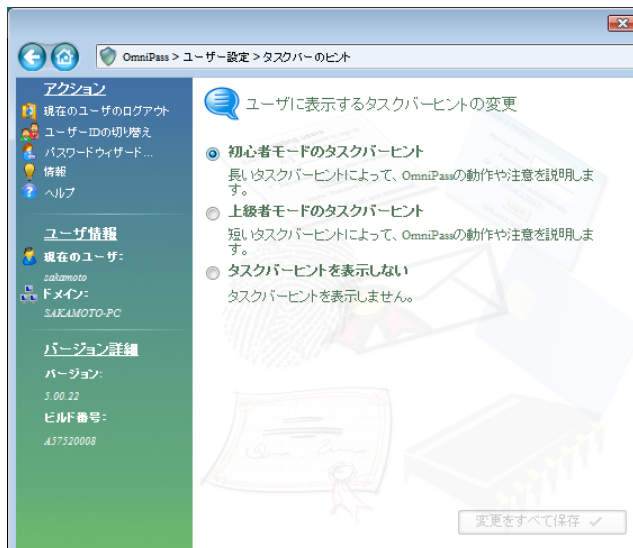
5-4-7. タスクバーヒントの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザー設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザーに表示するタスクバーヒントの変更」をクリックします。



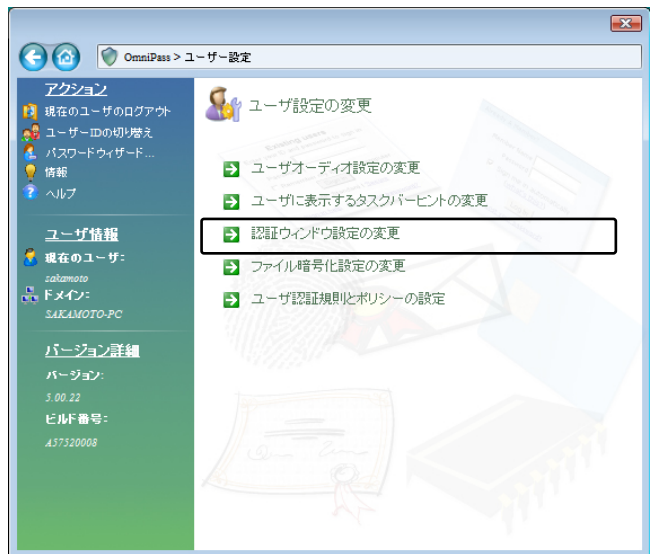
タスクバーのヒントを表示するという設定にしていれば、OmniPass は「パスワードを記憶」できるタイミングを常に通知しますので、ユーザーにログオンを要求する任意の認証イベントを記憶することができます。



5-4-8. 認証ウィンドウの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「認証ウィンドウ設定の変更」をクリックします。



「透明な認証ウィンドウ」を選択すると、認証画面の透明度を設定することができます。



